

鎌倉市の地域福祉に関するアンケート 調査結果報告書

令和7年8月

鎌 倉 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	市民調査結果.....	2
1	暮らしについて.....	2
2	災害への備えについて.....	9
3	暮らしを支える制度の認知度.....	11
4	これからの鎌倉のまちについて.....	14
5	基本情報について.....	17
III	福祉関係団体調査結果.....	18
1	貴団体の取り組みについて.....	18
2	鎌倉市の地域福祉の現状と今後の方向性について.....	21

I 調査の概要

1 調査の目的

市民の暮らしや、関係機関・団体の状況を把握し、「第2期鎌倉市地域福祉計画」策定の基礎資料とすることを目的として調査を実施しました。

2 調査対象

市 民：市内在住の13歳以上3,000人を対象に無作為抽出

福祉関係団体：市内の福祉関係団体を対象に調査

3 調査期間

令和7年6月～7月

4 調査方法

市 民：郵送による配布・回収およびWEBフォームからの回答

福祉関係団体：メールによる依頼およびWEBフォームからの回答

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市 民	3,000通	1,521通	50.7%
福祉関係団体	36通	29通	80.6%

6 調査結果の表示方法

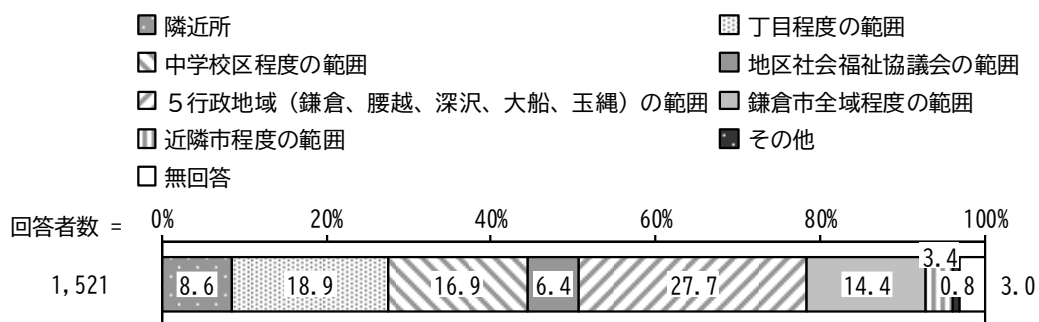
- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

Ⅱ 市民調査結果

1 暮らしについて

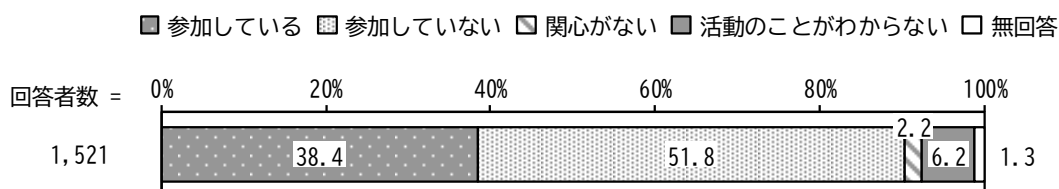
問1 あなたが日常生活でイメージする「地域」とは、どのような範囲ですか。
(○は1つだけ)

「5行政地域（鎌倉、腰越、深沢、大船、玉縄）の範囲」の割合が27.7%と最も高く、次いで「丁目程度の範囲」の割合が18.9%、「中学校区程度の範囲」の割合が16.9%となっています。



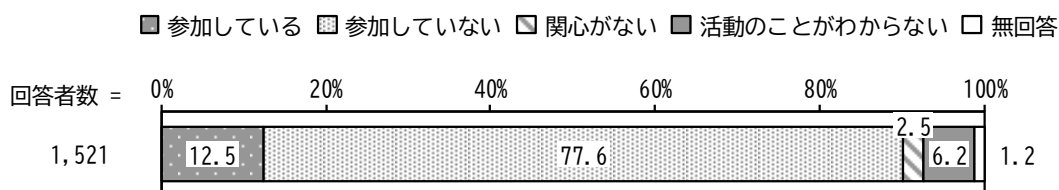
問2 自治会・町内会活動（自主防災組織・婦人部・子ども会など）に参加していますか。
(○は1つだけ)

「参加していない」の割合が51.8%と最も高く、次いで「参加している」の割合が38.4%となっています。



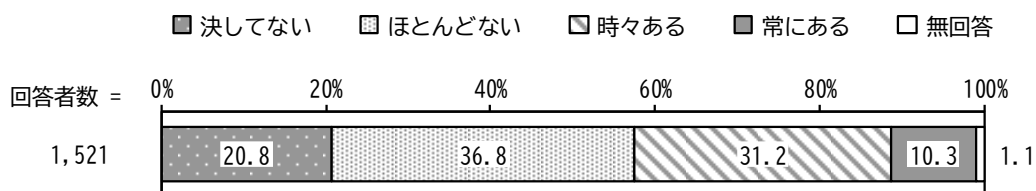
問3 テーマ型の活動（ボランティア活動・市民活動・NPO活動など）に参加していますか。
(○は1つだけ)

「参加していない」の割合が77.6%と最も高く、次いで「参加している」の割合が12.5%となっています。



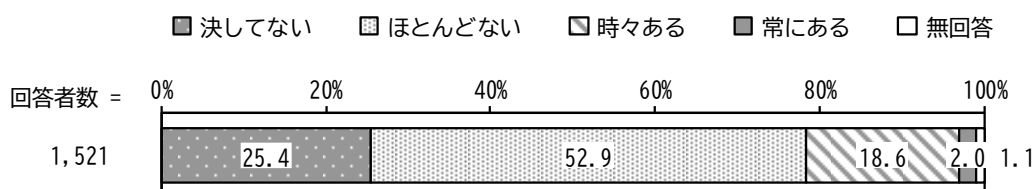
問4 あなたは、自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか。(○は1つだけ)

「決してない」「ほとんどない」を合わせた“感じることはない”の割合が57.6%、「時々ある」「常にある」を合わせた“感じることもある”の割合が41.5%となっています。



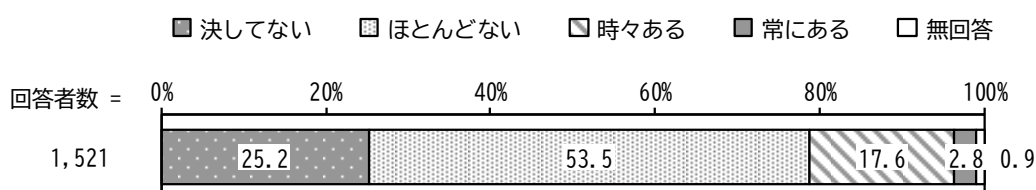
問5 あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。(○は1つだけ)

「決してない」「ほとんどない」を合わせた“感じることはない”の割合が78.3%、「時々ある」「常にある」を合わせた“感じることもある”の割合が20.6%となっています。



問6 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。(○は1つだけ)

「決してない」「ほとんどない」を合わせた“感じることはない”の割合が78.7%、「時々ある」「常にある」を合わせた“感じることもある”の割合が20.4%となっています。



孤独の状況（間接質問）

間接質問は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）のラッセルが、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案した「UCLA孤独感尺度」2の日本語版3の3項目短縮版4に基づくもので、以下の3つの設問への回答をスコア化し、その合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価する内容となっています。設問に「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査では問4～6に該当します。

問4 あなたは、自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか。
(○は1つだけ)

1 決してない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 常にある

問5 あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。(○は1つだけ)

1 決してない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 常にある

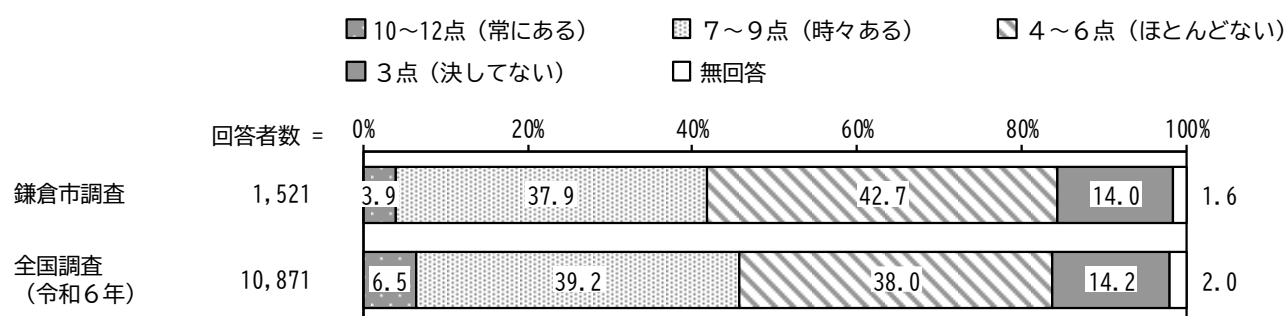
問6 あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。
(○は1つだけ)

1 決してない 2 ほとんどない 3 時々ある 4 常にある

間接質問は「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化しています（合計スコア（3点～12点）が高いほど孤独感が高いと評価）。

本市のスコアは「10～12点（常にある）」「7～9点（時々ある）」を合わせた“感じることはない”の割合が41.8%、「4～6点（ほとんどない）」「3点（決してない）」を合わせた“感じることもある”の割合が56.7%となっています。

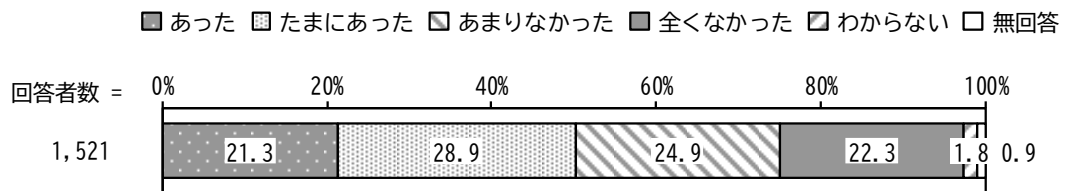
全国調査※と比較すると、大きな差はみられません。



※ 全国調査は、内閣府「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和6年人々のつながりに関する基礎調査）」から引用

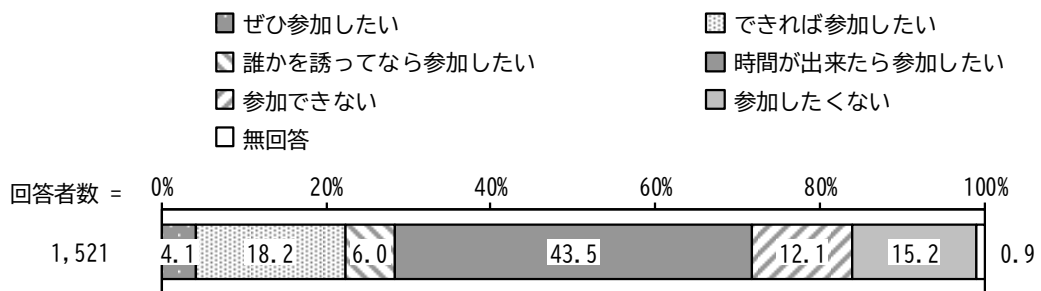
問7 あなたは、これまで地域の問題について地域の人と話す機会がありましたか。(○は1つだけ)

「あった」「たまにあった」を合わせた“あった”の割合が50.2%、「あまりなかった」「全くなかった」を合わせた“なかった”の割合が47.2%となっています。



問8 あなたは、地域の問題について地域の人と話す機会があれば参加したいですか。(○は1つだけ)

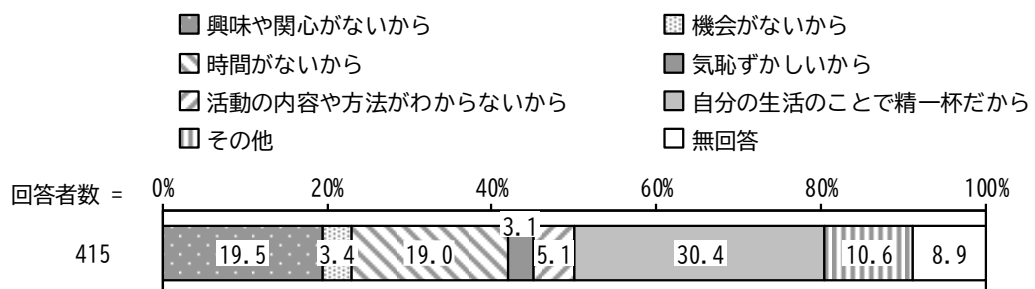
「時間が出来たら参加したい」の割合が43.5%と最も高く、次いで「できれば参加したい」の割合が18.2%、「参加したくない」の割合が15.2%となっています。



問8で「参加できない」「参加したくない」と答えた方にお聞きします。

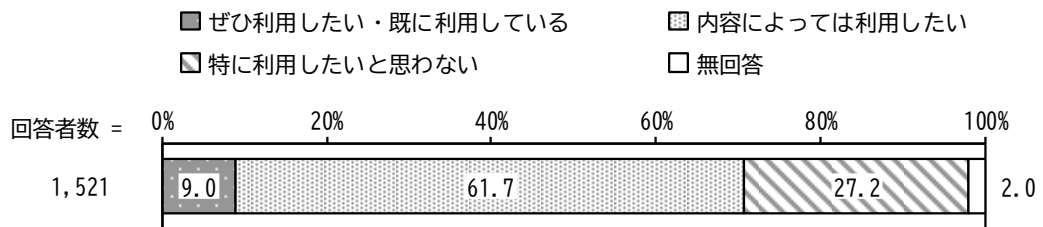
問8-1 参加できない、参加したくない理由は何ですか。(○は1つだけ)

「自分の生活のことで精一杯だから」の割合が30.4%と最も高く、次いで「興味や関心がないから」の割合が19.5%、「時間がないから」の割合が19.0%となっています。



問9 あなたは、自宅の近くに地域の方々が気軽に集うことのできる場所があれば、利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

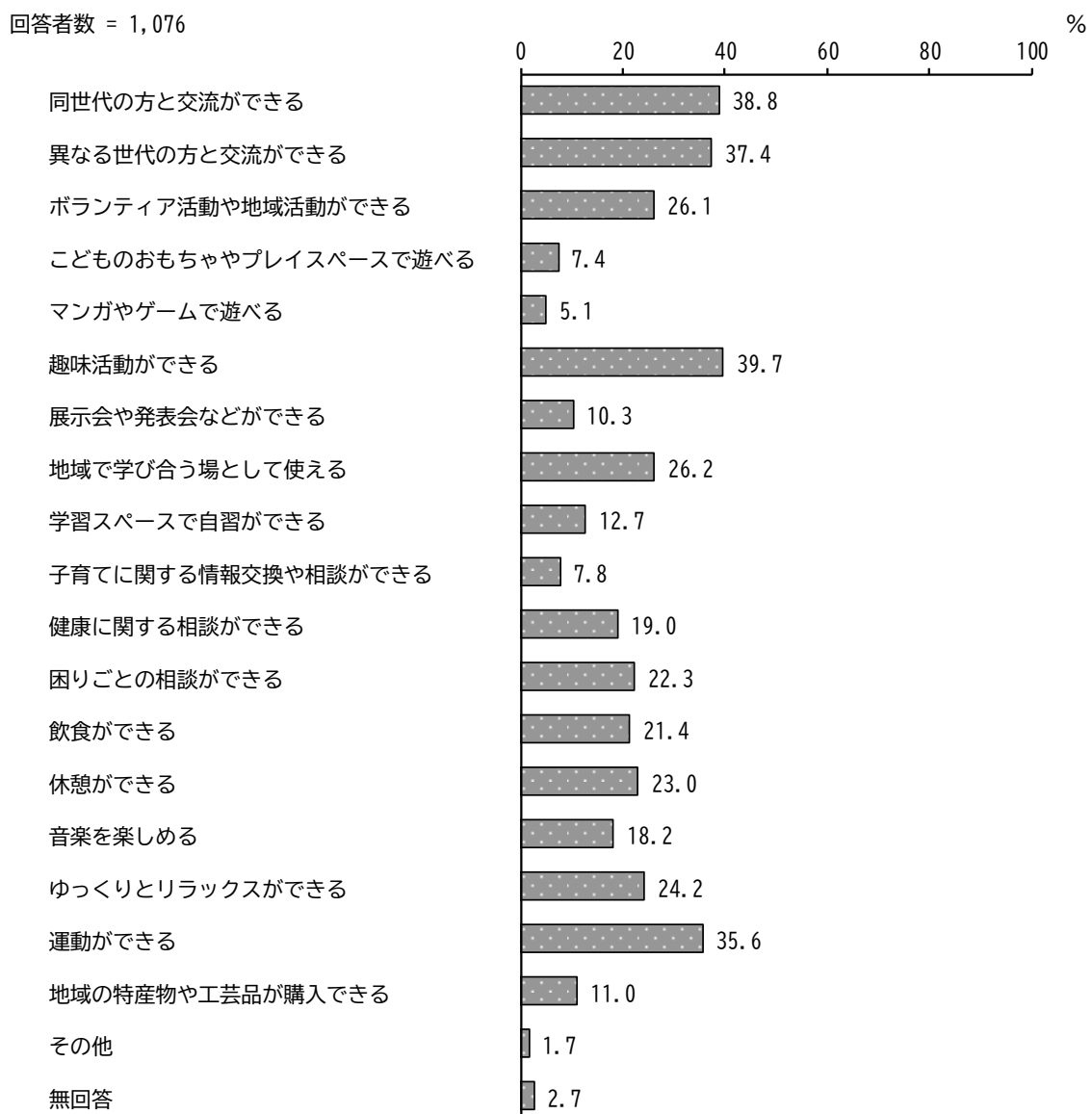
「ぜひ利用したい・既に利用している」の割合が9.0%、「内容によっては利用したい」の割合が61.7%、「特に利用したいと思わない」の割合が27.2%となっています。



問9で「ぜひ利用したい・既に利用している」「内容によっては利用したい」と答えた方にお聞きます。

問9-1 あなたは、その場所でどのような活動をしたいですか。(○はいくつでも)

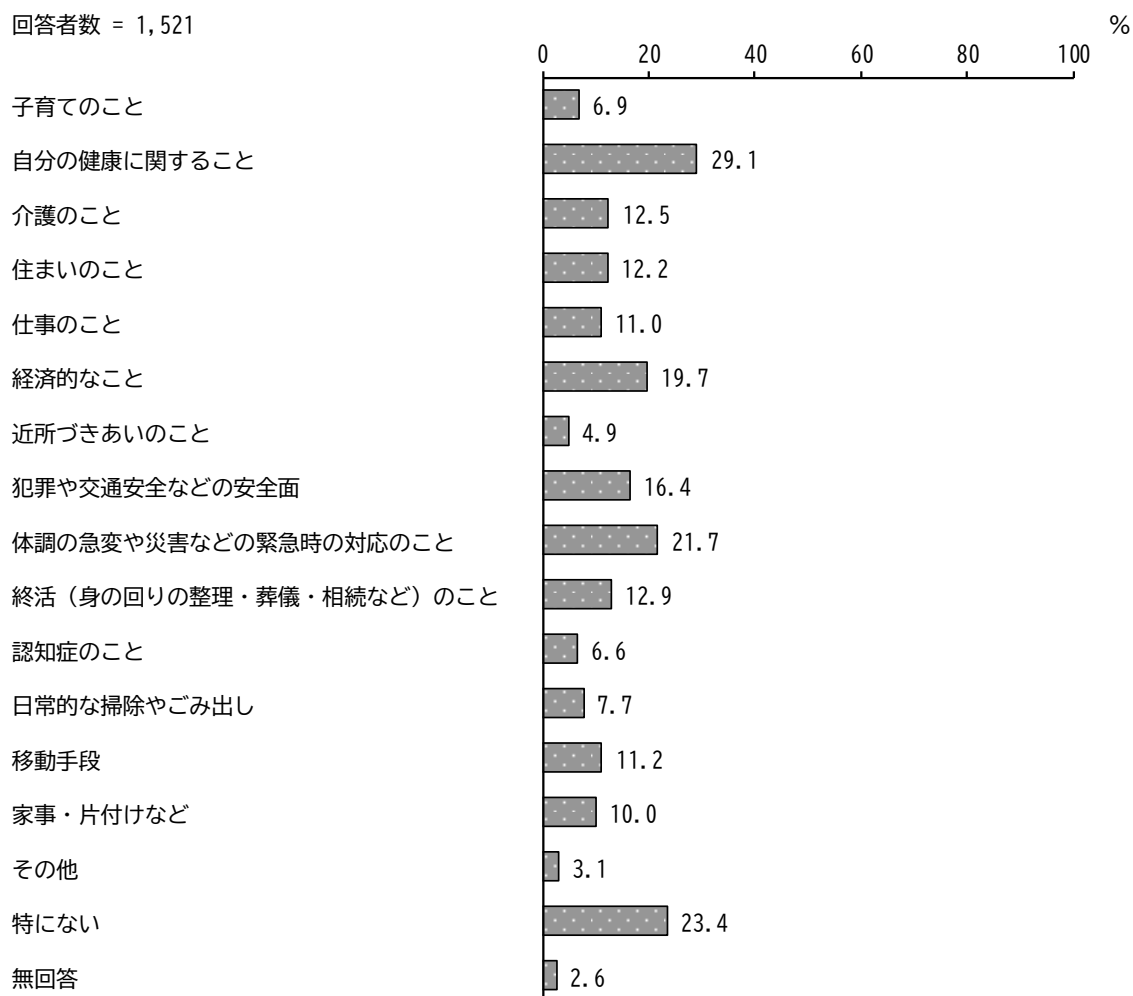
「趣味活動ができる」の割合が39.7%と最も高く、次いで「同世代の方と交流ができる」の割合が38.8%、「異なる世代の方と交流ができる」の割合が37.4%となっています。



問 10 あなたが、日々の生活で困っていること・悩みは何ですか。(〇はいくつでも)

「自分の健康に関すること」の割合が 29.1%と最も高く、次いで「特にない」の割合が 23.4%、「体調の急変や災害などの緊急時の対応のこと」の割合が 21.7%となっています。

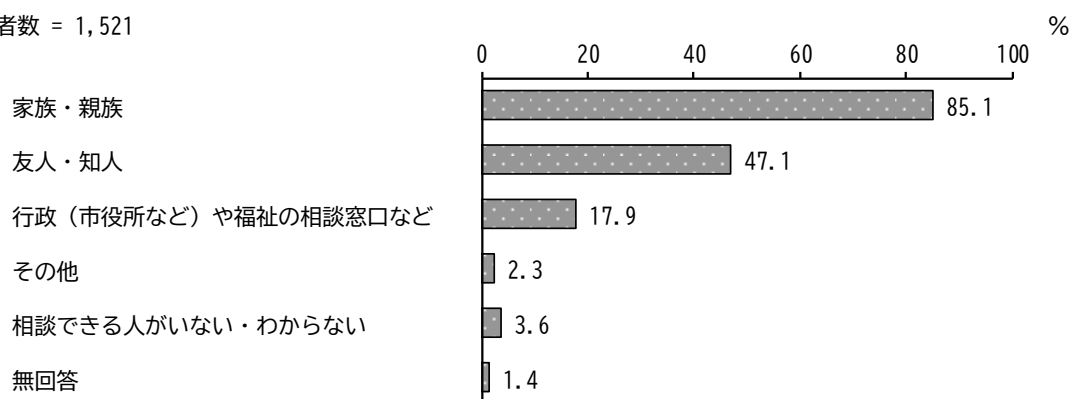
回答者数 = 1,521



問 11 あなたは、生活の困りごとなどが起こった時、だれに相談しますか。(〇はいくつでも)

「家族・親族」の割合が 85.1%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 47.1%、「行政（市役所など）や福祉の相談窓口など」の割合が 17.9%となっています。

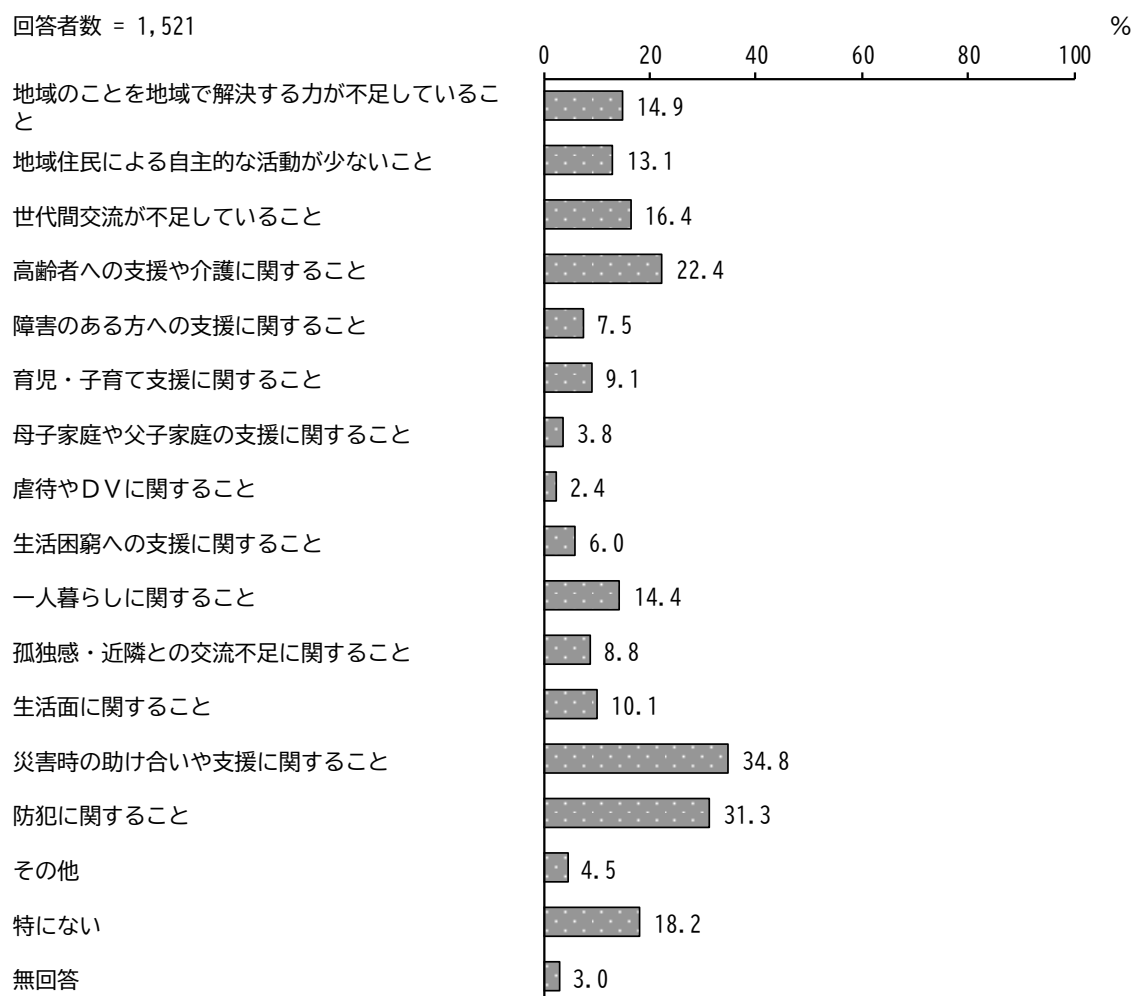
回答者数 = 1,521



問 12 あなたが、お住まいの地域では、安心して生活していく上でどのような課題があると感じていますか。(〇はいくつでも)

「災害時の助け合いや支援に関すること」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「防犯に関すること」の割合が 31.3%、「高齢者への支援や介護に関すること」の割合が 22.4%となっています。

回答者数 = 1,521

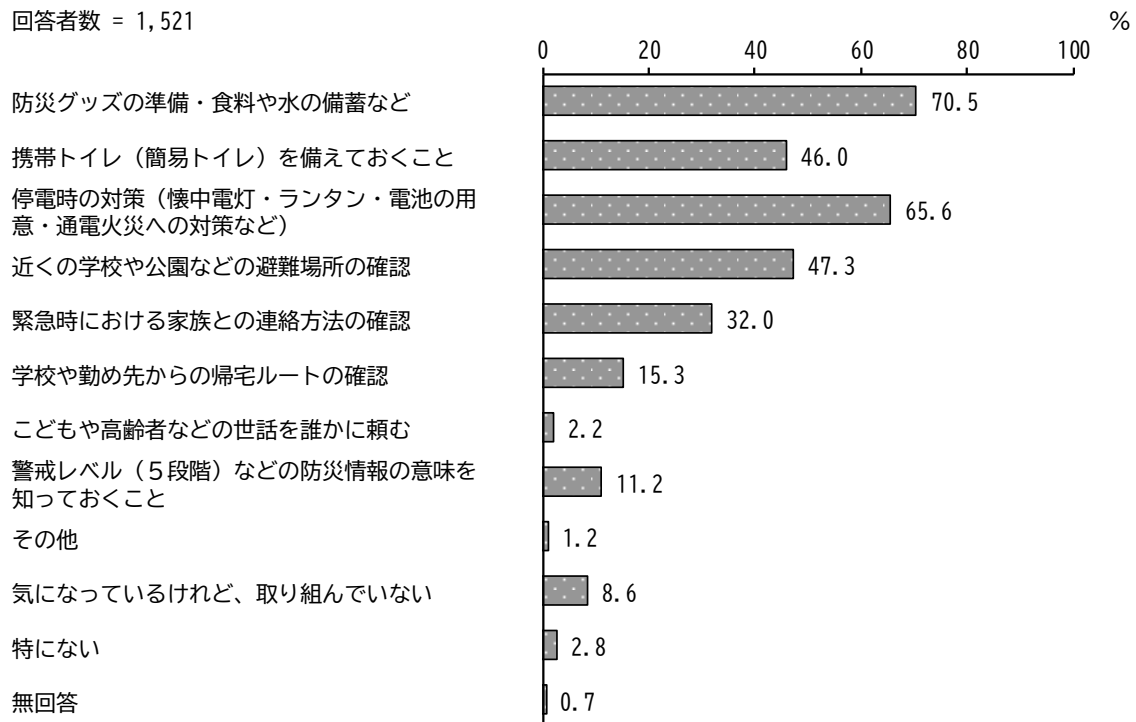


2 災害への備えについて

問 13 避難や救助が必要となる災害に備えて、あなたが取り組んでいることはありますか。
(〇はいくつでも)

「防災グッズの準備・食料や水の備蓄など」の割合が 70.5%と最も高く、次いで「停電時の対策（懐中電灯・ランタン・電池の用意・通電火災への対策など）」の割合が 65.6%、「近くの学校や公園などの避難場所の確認」の割合が 47.3%となっています。

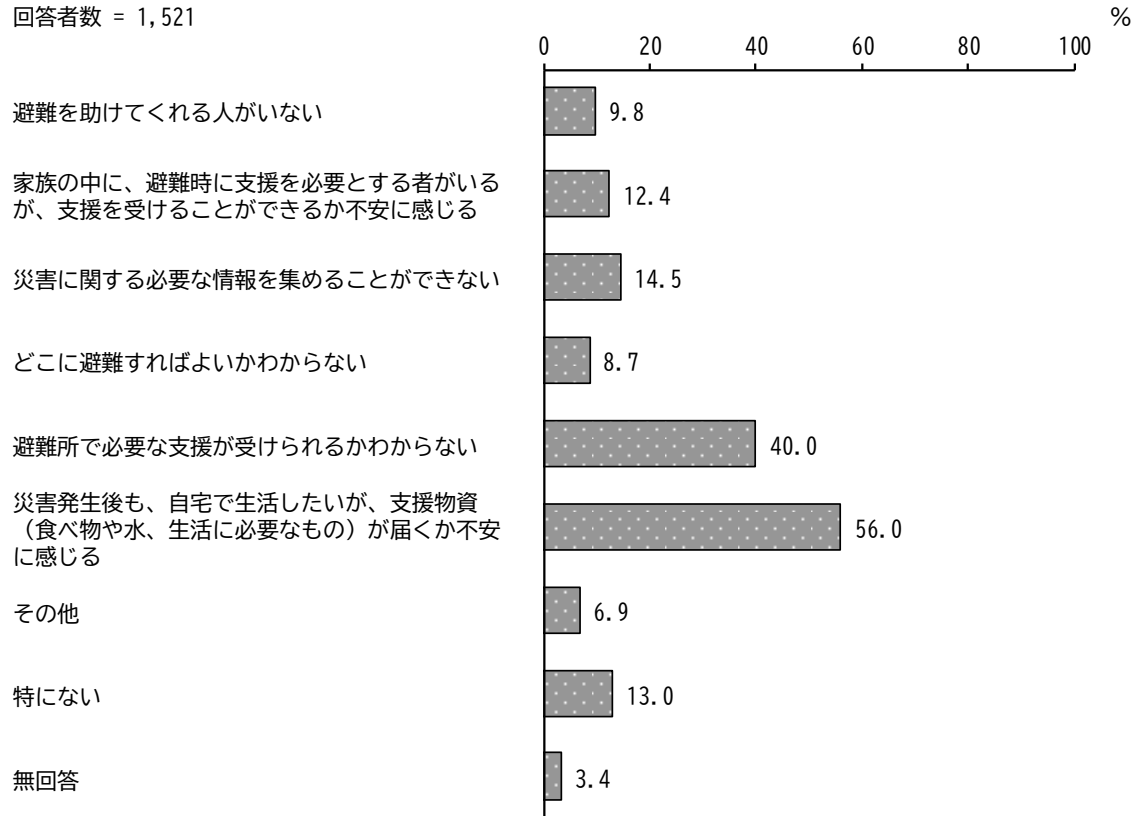
回答者数 = 1,521



問 14 あなたは、災害が発生した場合、不安に思っていることはありますか。(〇はいくつでも)

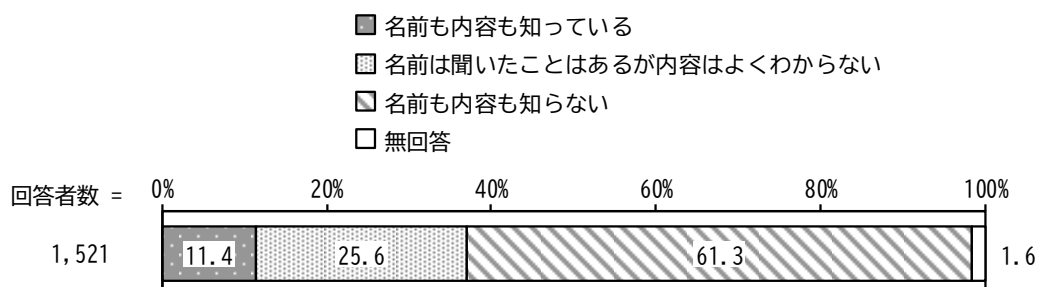
「災害発生後も、自宅で生活したいが、支援物資（食べ物や水、生活に必要なもの）が届くか不安に感じる」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるかわからない」の割合が 40.0%、「災害に関する必要な情報を集めることができない」の割合が 14.5%となっています。

回答者数 = 1,521



問 15 「避難行動要支援者制度」や「避難行動要支援者名簿」について、知っていますか。(〇は1つだけ)

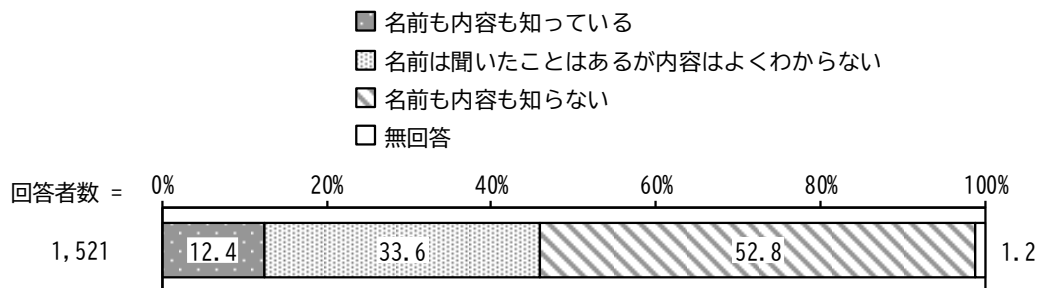
「名前も内容も知っている」の割合が 11.4%、「名前は聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が 25.6%、「名前も内容も知らない」の割合が 61.3%となっています。



3 暮らしを支える制度の認知度

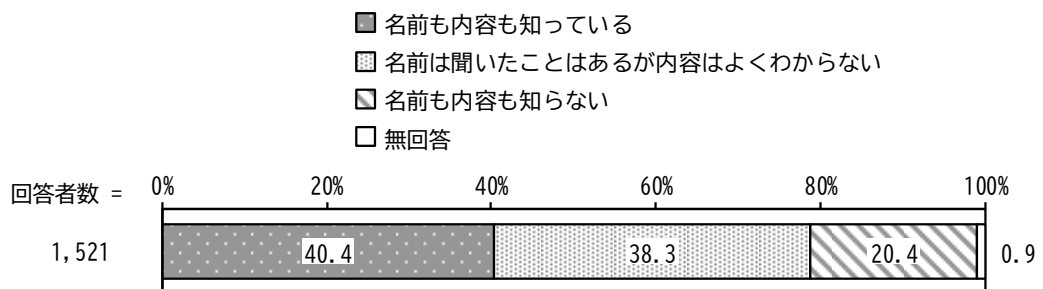
問 16 あなたは、鎌倉市が「包括的支援」に取り組んでいることや、そのために重層的支援体制整備事業を行っていることを知っていますか。(○は1つだけ)

「名前も内容も知っている」の割合が 12.4%、「名前は聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が 33.6%、「名前も内容も知らない」の割合が 52.8%となっています。



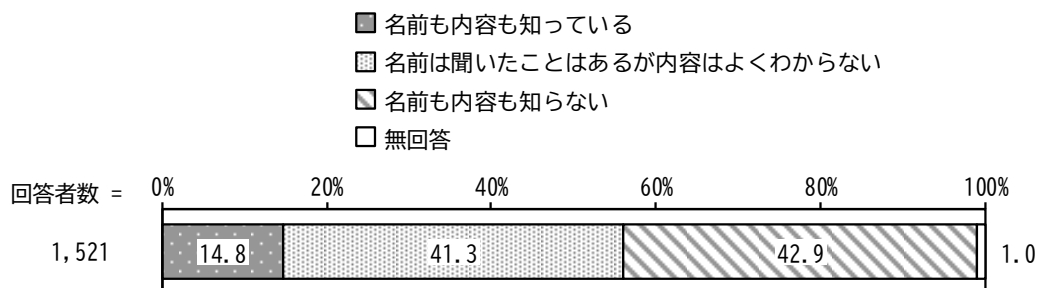
問 17 あなたは、「ケアラー」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

「名前も内容も知っている」の割合が 40.4%、「名前は聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が 38.3%、「名前も内容も知らない」の割合が 20.4%となっています。



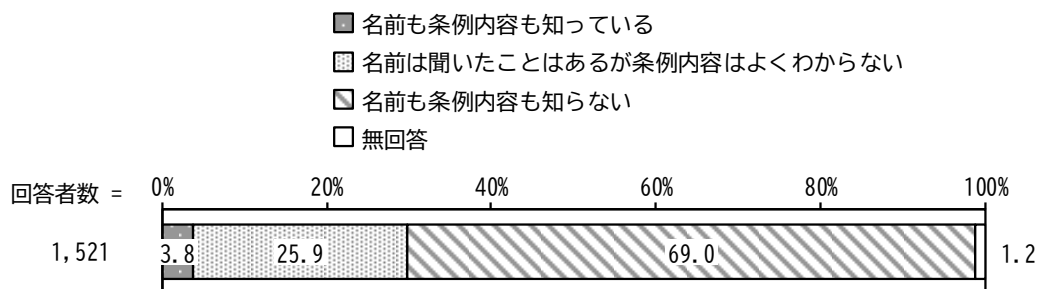
問 18 あなたは、「ケアラー支援」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

「名前も内容も知っている」の割合が 14.8%、「名前は聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が 41.3%、「名前も内容も知らない」の割合が 42.9%となっています。



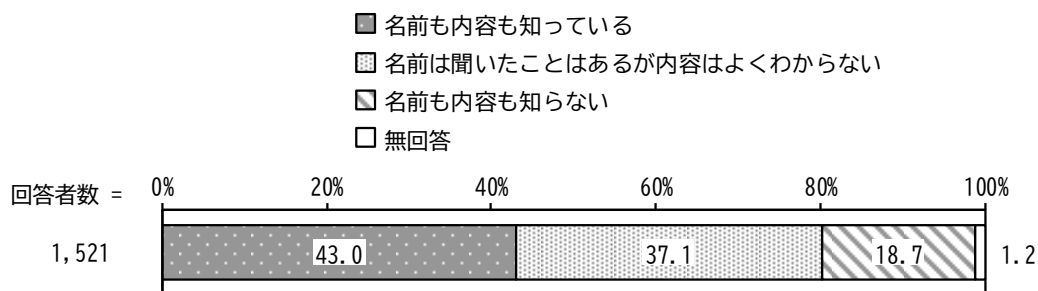
問 19 あなたは、「ケアラー支援条例」について、知っていますか。(○は1つだけ)

「名前も条例内容も知っている」の割合が 3.8%、「名前は聞いたことはあるが条例内容はよくわからない」の割合が 25.9%、「名前も条例内容も知らない」の割合が 69.0%となっています。



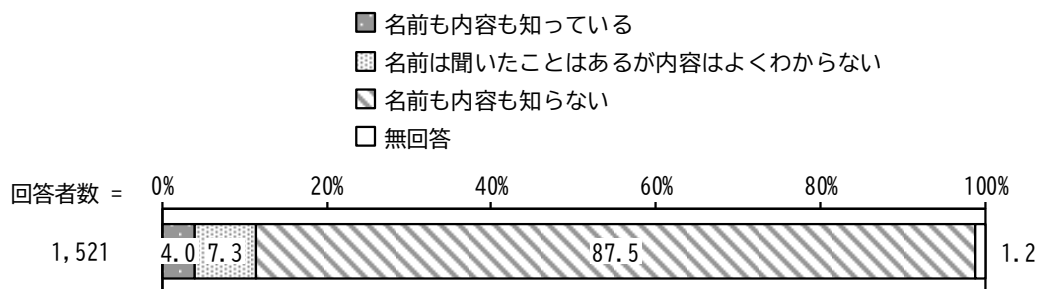
問 20 あなたは、「成年後見制度」について、知っていますか。(○は1つだけ)

「名前も内容も知っている」の割合が 43.0%、「名前は聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が 37.1%、「名前も内容も知らない」の割合が 18.7%となっています。



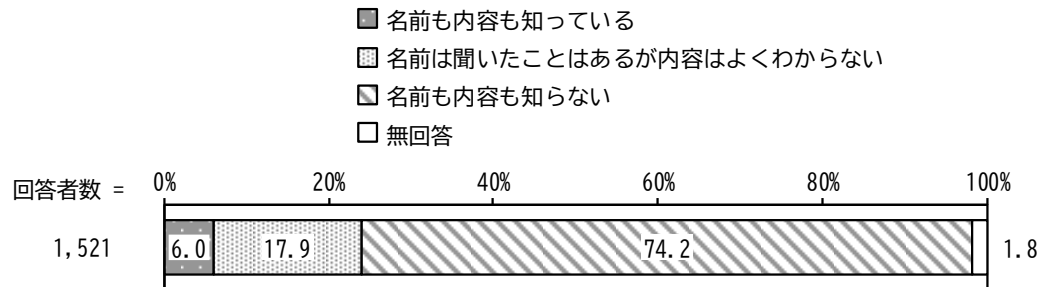
問 21 あなたは、市役所以外の生活困窮者の相談窓口として、「インクル相談室鎌倉」があるのを知っていますか。(○は1つだけ)

「名前も内容も知っている」の割合が 4.0%、「名前は聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が 7.3%、「名前も内容も知らない」の割合が 87.5%となっています。



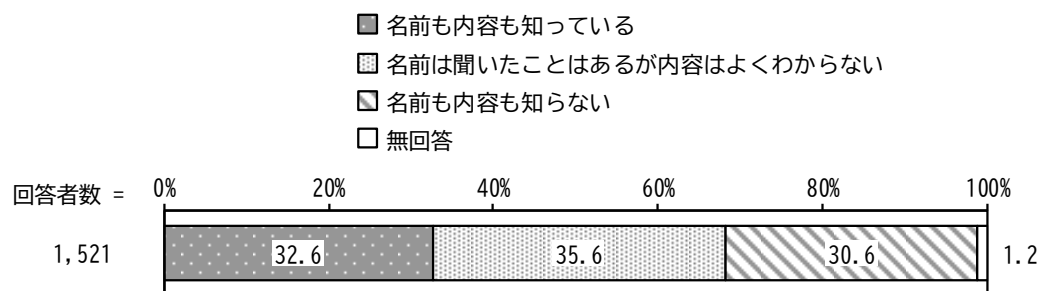
問 22 あなたは、住まいに困ったときに頼れる組織と相談窓口があるのを知っていますか。
(○は1つだけ)

「名前も内容も知っている」の割合が 6.0%、「名前は聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が 17.9%、「名前も内容も知らない」の割合が 74.2%となっています。



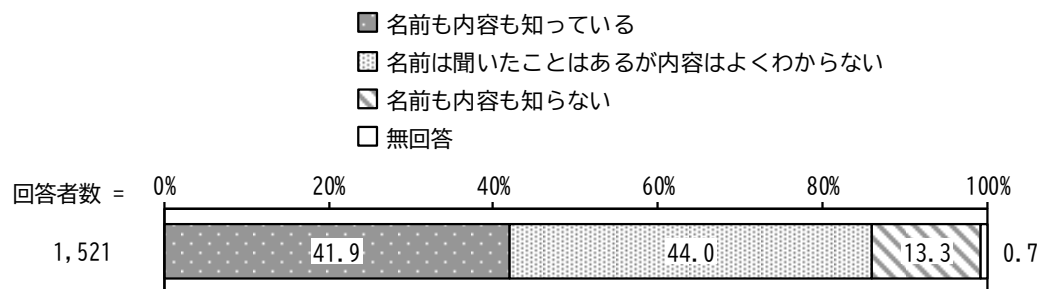
問 23 あなたは、「保護司」の活動を知っていますか。(○は1つだけ)

「名前も内容も知っている」の割合が 32.6%、「名前は聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が 35.6%、「名前も内容も知らない」の割合が 30.6%となっています。



問 24 あなたは、「民生委員・児童委員」の活動を知っていますか。(○は1つだけ)

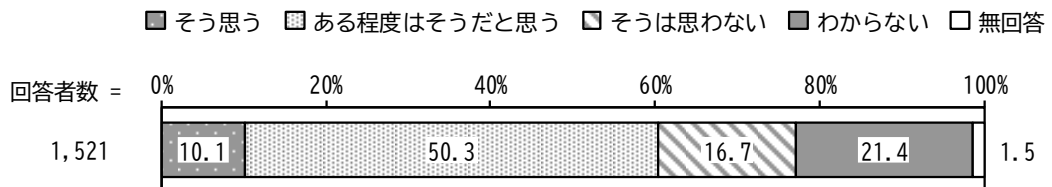
「名前も内容も知っている」の割合が 41.9%、「名前は聞いたことはあるが内容はよくわからない」の割合が 44.0%、「名前も内容も知らない」の割合が 13.3%となっています。



4 これからの鎌倉のまちについて

問 25 鎌倉市は、年齢、性別、性的指向や性自認、障害及び病気の有無、家族のかたち、職業、経済状況、国籍、文化的背景が異なっても、多様な人々が尊重され、どのような立場になろうとも、自分らしく居られる・暮らせるまちだと感じますか。(○は1つだけ)

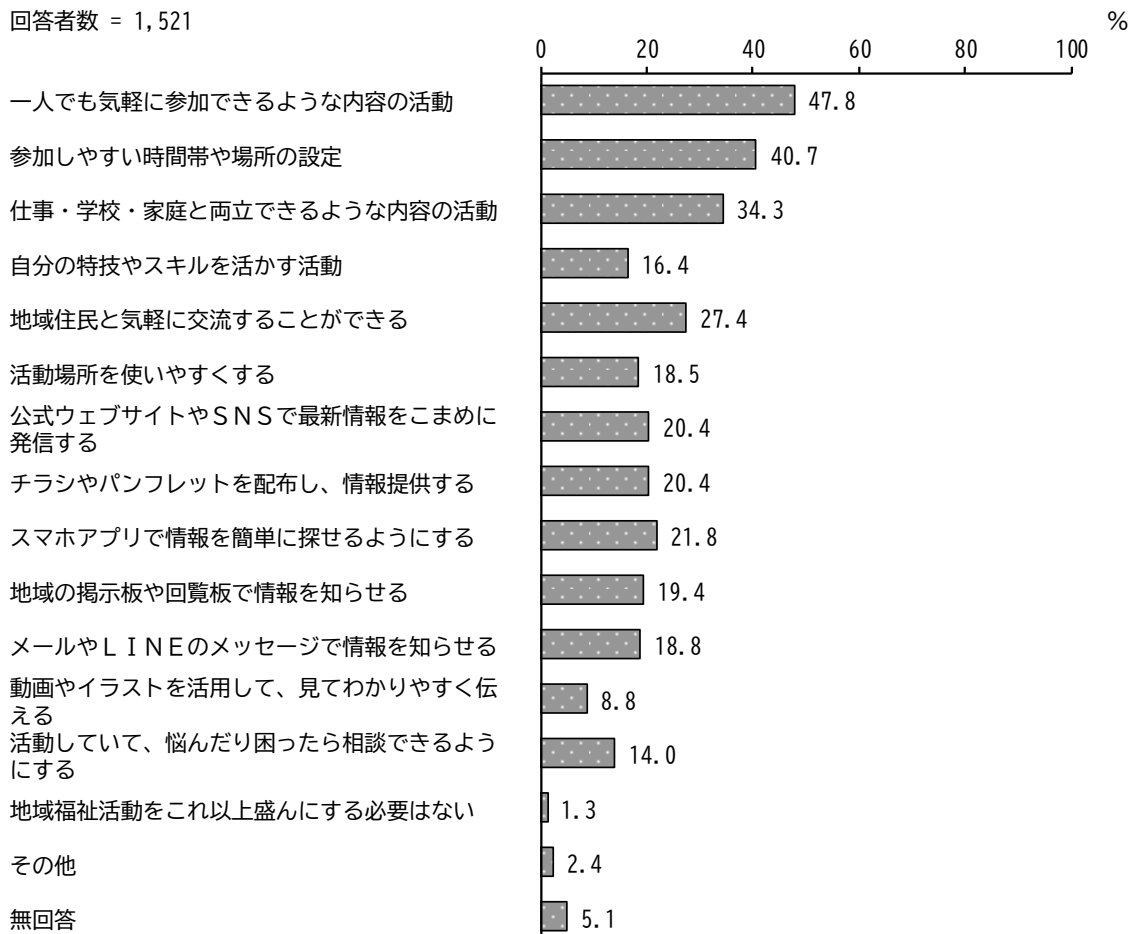
「そう思う」の割合が 10.1%、「ある程度はそうだと思う」の割合が 50.3%、「そうは思わない」の割合が 16.7%となっています。



問 26 地域福祉の活動を促進するために必要なことは何だと思いませんか。(○は5つまで)

「一人でも気軽に参加できるような内容の活動」の割合が 47.8%と最も高く、次いで「参加しやすい時間帯や場所の設定」の割合が 40.7%、「仕事・学校・家庭と両立できるような内容の活動」の割合が 34.3%となっています。

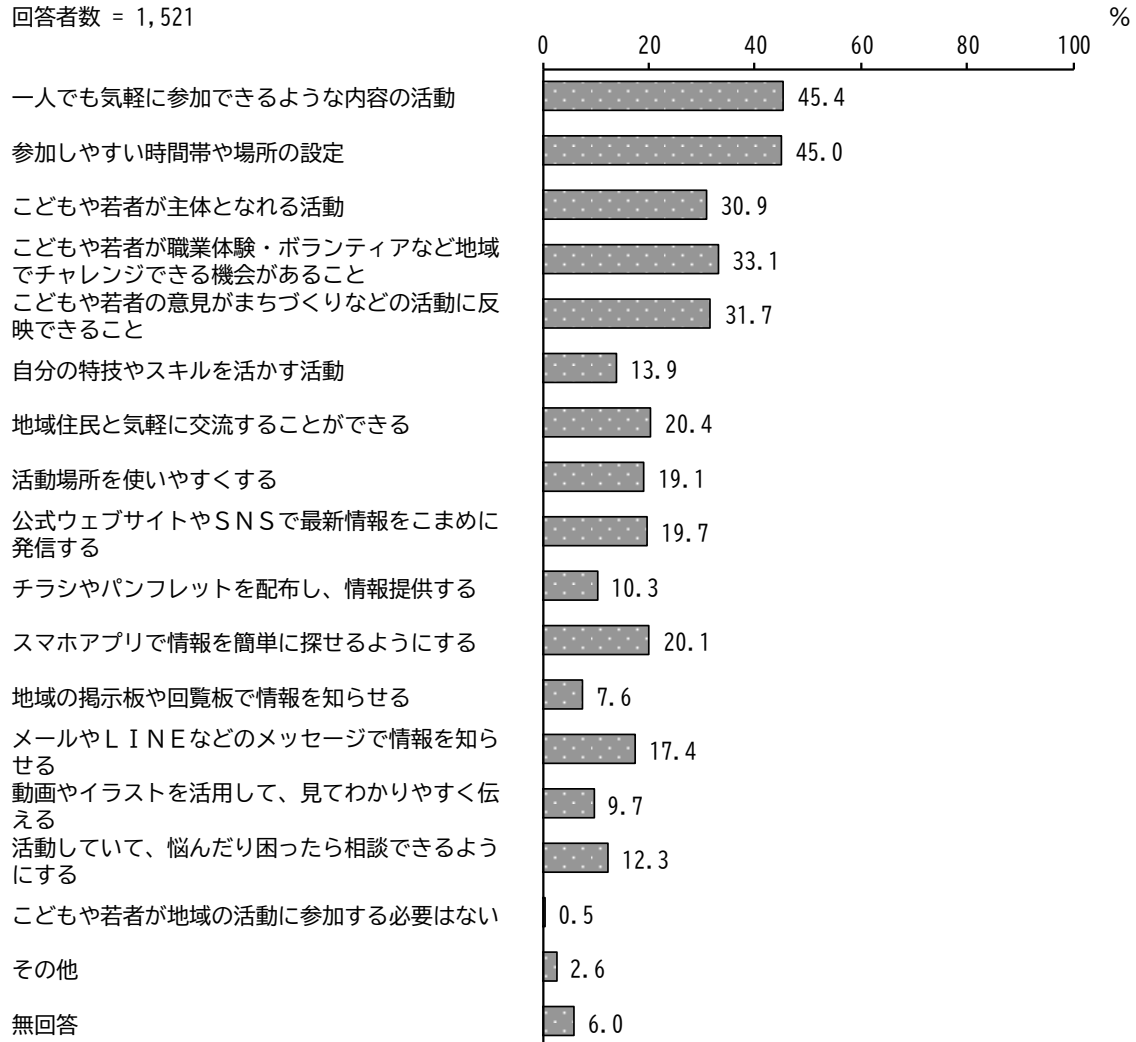
回答者数 = 1,521



問 27 こどもや若者が地域との繋がりや、地域に参加するために必要なことは何だと思えますか。(〇は5つまで)

「一人でも気軽に参加できるような内容の活動」の割合が 45.4%と最も高く、次いで「参加しやすい時間帯や場所の設定」の割合が 45.0%、「こどもや若者が職業体験・ボランティアなど地域でチャレンジできる機会があること」の割合が 33.1%となっています。

回答者数 = 1,521



問 28 「地域のつながりや支え合い」を高めていくためのご意見やご提案などがありましたらご記入ください。

地域のつながりや支え合いを高めていくための意見として、345 人から意見が寄せられました。

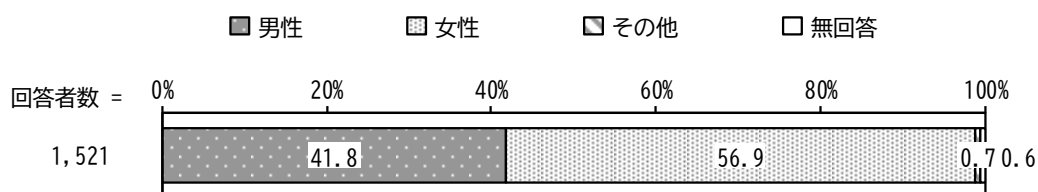
カテゴリ名	件数
自治会・町内会の活性化と支援 ・ 自治会や町内会の組織を再活性化したい ・ 自治会活動の参画促進や、行政からの支援・補助の強化についての要望 など	50
行政・広報の改善（情報提供・担当者対応など） ・ 市の広報活動や情報発信が十分でないため、分かりやすく迅速な情報提供、また担当者の対応改善 ・ 回覧板以外の広報ツールや、情報発信のデジタル化 など	52
高齢者・ひとり暮らしへの支援強化 ・ 高齢者やひとり暮らしの住民が抱える孤立や生活上の不便さに対する支援の充実 ・ 高齢者向けのイベントや支援施策の改善、具体的な相談窓口の強化 など	39
地域交流イベントの開催 ・ 住民が気軽に交流できるイベントや集会の開催 ・ 多世代が参加できるイベントや交流の場・文化活動の拡充 など	44
インフラ整備・交通・公共施設の改善 ・ 道路や公共交通機関、公共施設の整備 ・ インフラ・施設整備に対する予算確保 など	18
防災・安全対策の充実 ・ 防災訓練、避難計画の再検討 など	13
外国人観光客への対応 ・ 外国人観光客による混雑や騒音、まちなみの乱れ、公共施設への影響などに対し、人数制限や適切なルール制定、対策の強化 など	11
その他	77

※無回答、特にないなどの意見を除く

5 基本情報について

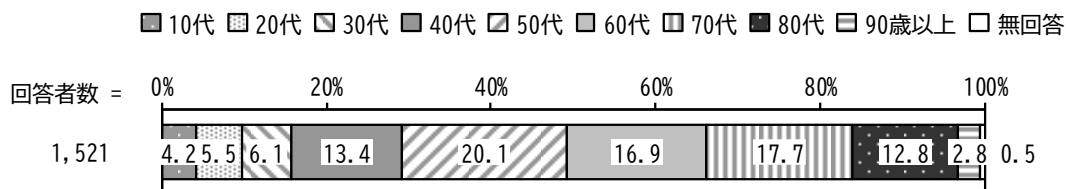
F 1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

「男性」の割合が41.8%、「女性」の割合が56.9%となっています。



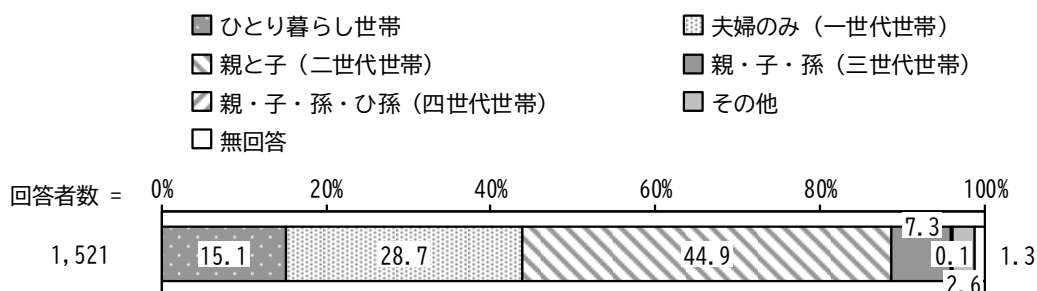
F 2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つだけ)

「50代」の割合が20.1%と最も高く、次いで「70代」の割合が17.7%、「60代」の割合が16.9%となっています。



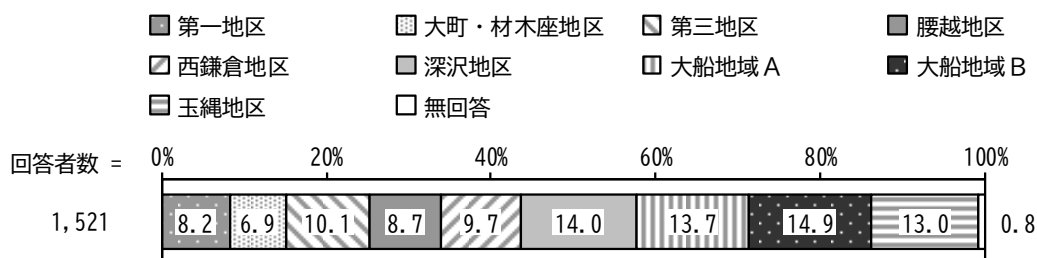
F 3 ご家族の構成をお答えください。(○は1つだけ) ※現在のお住まいでお答えください。

「親と子（二世世代世帯）」の割合が44.9%と最も高く、次いで「夫婦のみ（一世世代世帯）」の割合が28.7%、「ひとり暮らし世帯」の割合が15.1%となっています。



F 4 あなたのお住まいの地区はどちらですか。該当する回答欄に○をつけてください。(○は1つだけ)

「大船地域B」の割合が14.9%と最も高く、次いで「深沢地区」の割合が14.0%、「大船地域A」の割合が13.7%となっています。

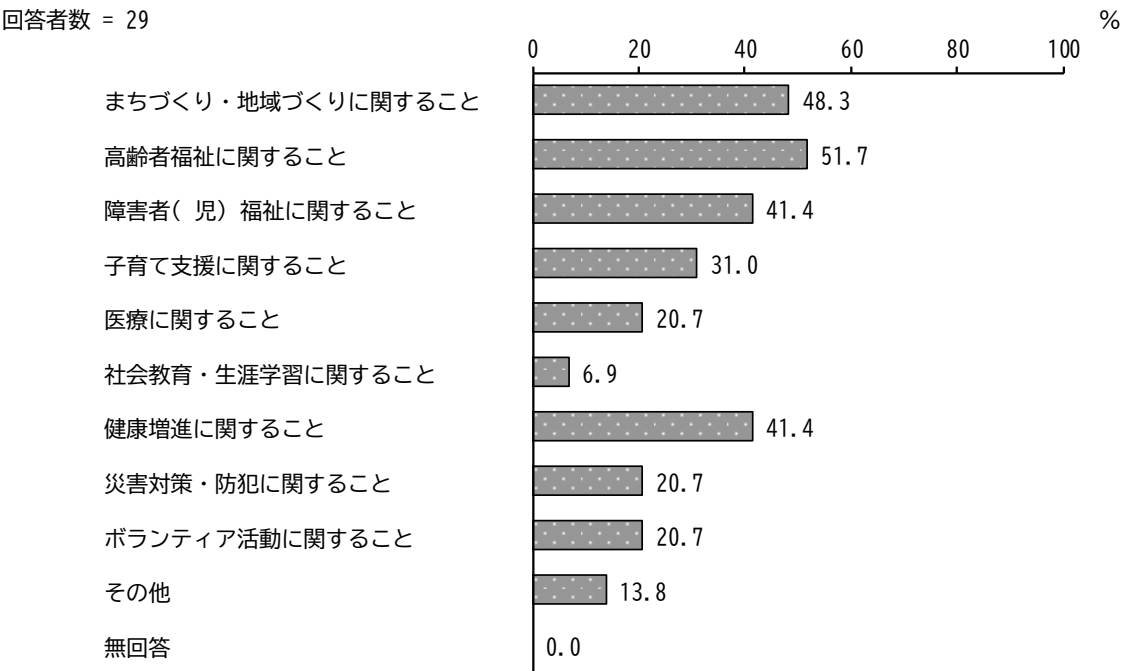


Ⅲ 福祉関係団体調査結果

1 貴団体の取り組みについて

問1 貴団体が鎌倉市内で行っている活動分野をお聞きます。(○はいくつでも)

「高齢者福祉に関すること」の割合が 51.7%と最も高く、次いで「まちづくり・地域づくりに関すること」の割合が 48.3%、「障害者(児)福祉に関すること」、「健康増進に関すること」の割合が 41.4%となっています。



問2 貴団体の地域福祉に関する取り組み状況と今後の方向性について、お聞きます。(当てはまる番号それぞれに○)

【ポートフォリオによる分析】

(1) 取り組み状況・今後の方向性の得点化

15 項目の質問項目について、「取り組み状況」を2つの選択肢の中から、「今後の方向性」を3つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

■取り組み状況・今後の方向性の得点化の手順■

取り組み状況		得点		今後の方向性		得点
行っていない	→	0 点		縮小	→	-1 点
行っている	→	1 点		現状維持	→	0 点
無回答	→	計算対象外		拡充	→	1 点
				無回答	→	計算対象外

■得点の算出式■

1点×「行っている（拡充）」の回答数
+0点×「現状維持」の回答数
-1点×「行っていない（縮小）」の回答数／無回答を除く回答数

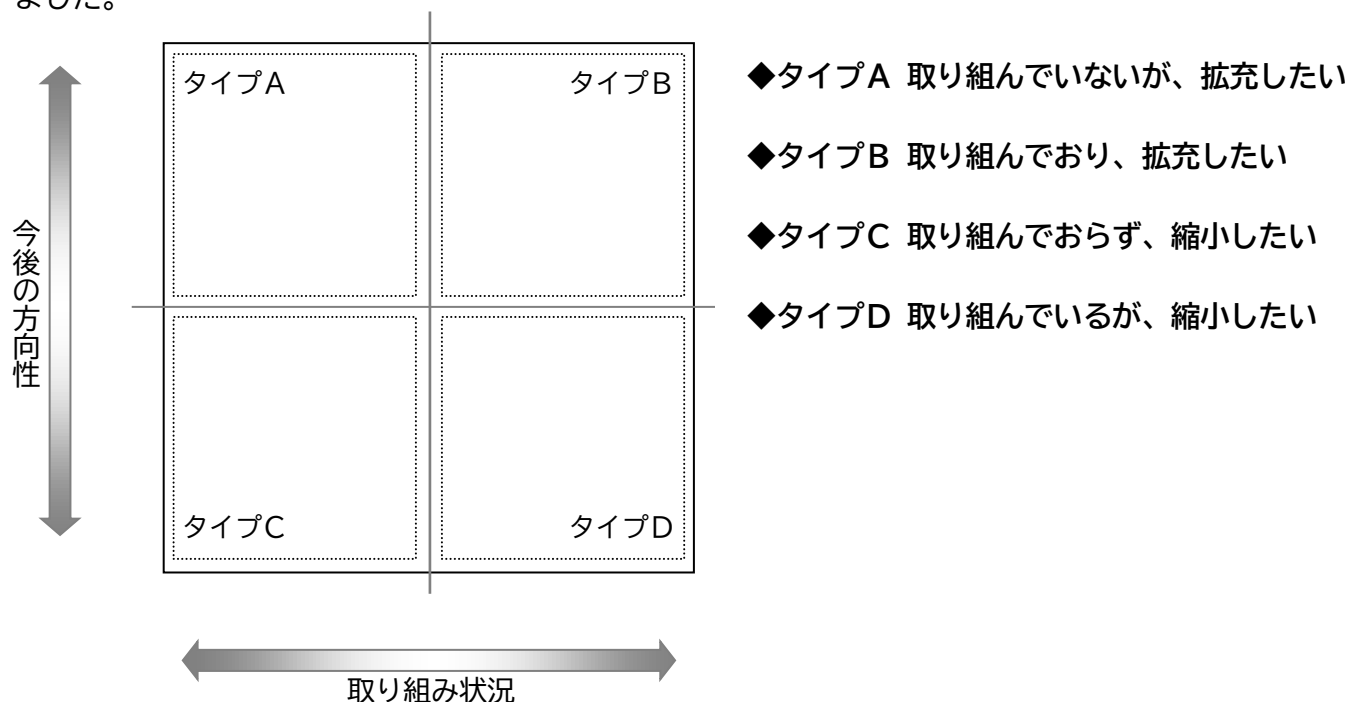
算出された取り組み状況・今後の方向性の得点をもとに、各施策の取り組み状況・今後の方向性に順位付けを行いました。

■取り組み状況・今後の方向性のベスト3とワースト3■

取り組み状況	得点	順位	得点	今後の方向性
施策名				施策名
(ウ)福祉制度の狭間で支援が届きにくい課題に対応する	0.89	第1位	0.50	(イ)高齢者、障害者、子ども・子育て支援などの福祉分野の中で、特に重点的に取り組む分野を強化する
(イ)高齢者、障害者、子ども・子育て支援などの福祉分野の中で、特に重点的に取り組む分野を強化する	0.86	第2位		(シ)地域住民が集い、交流できる拠点を整備・活用する
(エ)生活困窮者や複合的な課題を抱える世帯など、多様な福祉分野にまたがる支援を必要とする人々への対応に取り組む	0.79	第3位	0.46	(ウ)福祉制度の狭間で支援が届きにくい課題に対応する
(オ)共生型サービスなど、福祉の枠を超えた統合的な支援を展開する	0.39	第13位	0.11	(カ)住居に課題を抱える人々への包括的な支援を提供する
(キ)就労に困難を抱える人々に対し、福祉分野を超えた横断的な支援を実施する	0.36	第14位		(ク)自殺予防の観点を踏まえた支援を進める
(サ)保健医療や福祉サービスを必要とする犯罪歴のある人々の社会復帰を支援する	0.25	最下位	0.07	(サ)保健医療や福祉サービスを必要とする犯罪歴のある人々の社会復帰を支援する

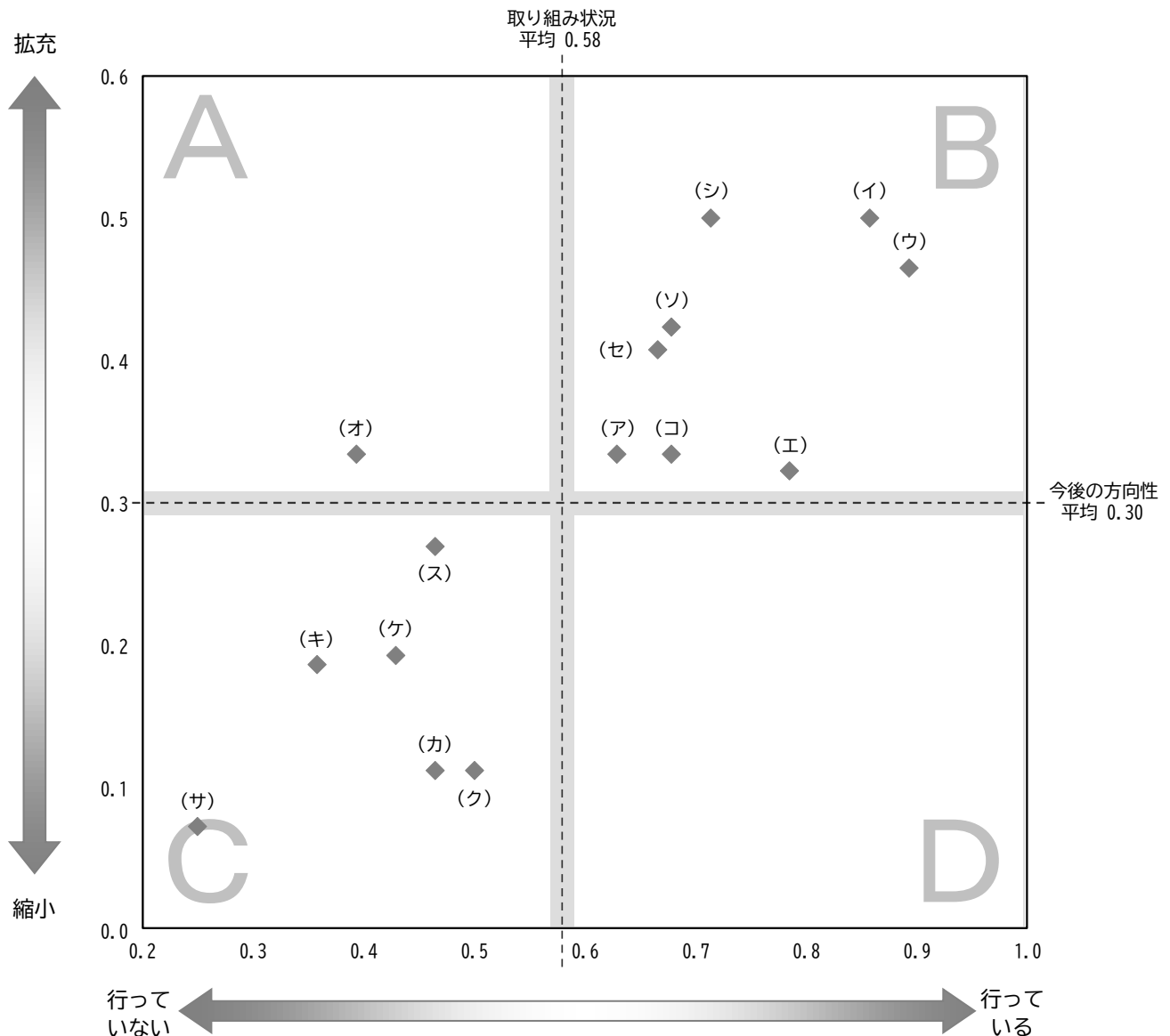
(2) ポートフォリオ分析による取り組み状況・今後の方向性の評価

各項目の取り組み状況・今後の方向性の得点の関係について、取り組み状況・今後の方向性をそれぞれ縦軸と横軸にとり、得点の平均値を境界として、4つの領域に区分したプロット図を作成し、分析しました。



●施策のポートフォリオ分析（回答者数 = 29）

取り組んでいないが、拡充したい施策（タイプA）は、『(オ)共生型サービスなど、福祉の枠を超えた統合的な支援を展開する』が挙げられています。



項目	
(ア)福祉以外の分野（まちづくり、商工業、農林水産業、土木、防災・防犯、社会教育、環境、交通、都市計画など）と連携し、様々な課題を抱える人々の就労や社会参加の機会を提供する	(ケ)市民後見人の育成や活動支援、判断能力に不安を抱える人々への金銭管理や身元保証など、権利擁護に対する支援
(イ)高齢者、障害者、子ども・子育て支援などの福祉分野の中で、特に重点的に取り組む分野を強化する	(コ)高齢者、障害者、児童への虐待防止に取り組むつつ、虐待を行った養護者・保護者の課題にも対応する
(ウ)福祉制度の狭間で支援が届きにくい課題に対応する	(サ)保健医療や福祉サービスを必要とする犯罪歴のある人々の社会復帰を支援する
(エ)生活困窮者や複合的な課題を抱える世帯など、多様な福祉分野にまたがる支援を必要とする人々への対応に取り組む	(シ)地域住民が集い、交流できる拠点を整備・活用する
(オ)共生型サービスなど、福祉の枠を超えた統合的な支援を展開する	(ス)地域住民が主体的に生活課題を把握し、解決に取り組める地域づくりを進める
(カ)住居に課題を抱える人々への包括的な支援を提供する	(セ)官民協働の促進や地域福祉への関心を高めるための活動を推進する
(キ)就労に困難を抱える人々に対し、福祉分野を超えた横断的な支援を実施する	(ソ)地域づくりに貢献する事業に取り組む
(ク)自殺予防の観点で踏まえた支援を進める	

2 鎌倉市の地域福祉の現状と今後の方向性について

問3 鎌倉市全体のことについて、お聞きします。

【ポートフォリオによる分析】

(1) 充足度・今後の方向性の得点化

16 項目の質問項目について、「充足度」を3つの選択肢の中から、「今後の方向性」を2つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

■充足度・今後の方向性の得点化の手順■

充足度		得点		今後の方向性		得点
不足	→	-1 点		現状維持	→	0 点
普通	→	0 点		拡充希望	→	1 点
充足		1 点		無回答		計算対象外
無回答	→	計算対象外				

■得点の算出式■

1点×「充足（拡充希望）」の回答数
 +0点×「普通（現状維持）」の回答数
 -1点×「不足」の回答数／無回答を除く回答数

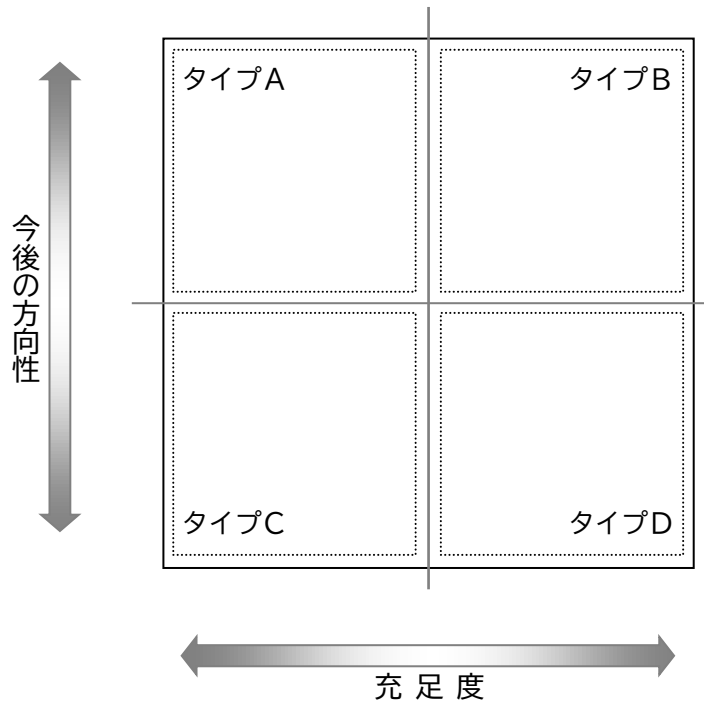
算出された充足度・今後の方向性の得点をもとに、各施策の充足度・今後の方向性別に順位付けを行いました。

■充足度・今後の方向性のベスト3とワースト3■

充足度				今後の方向性
施策名	得点	順位	得点	施策名
(ク)自殺予防の観点を踏まえた効果的な支援策を進める	-0.30	第1位	0.85	(ウ)福祉制度の狭間で支援が届きにくい課題に対応する
(セ)官民協働の促進や地域福祉への関心を高めるための寄付や募金活動を推進する		第2位	0.82	(オ)共生型サービスなど、福祉の枠を超えた統合的な支援を展開する
(キ)就労に困難を抱える人々に対し、福祉分野を超えた横断的な支援を実施する	-0.33	第3位		(シ)地域住民が集い、交流できる拠点を整備・活用する
(タ)地域福祉を推進するために、全庁的な体制を整備する	-0.54	第14位	0.63	(キ)就労に困難を抱える人々に対し、福祉分野を超えた横断的な支援を実施する
(ウ)福祉制度の狭間で支援が届きにくい課題に対応する	-0.59	第15位	0.54	(ク)自殺予防の観点を踏まえた効果的な支援策を進める
(シ)地域住民が集い、交流できる拠点を整備・活用する	-0.61	最下位	0.48	(サ)保健医療や福祉サービスを必要とする犯罪歴のある人々の社会復帰を支援する
				(セ)官民協働の促進や地域福祉への関心を高めるための寄付や募金活動を推進する

(2) ポートフォリオ分析による充足度・今後の方向性の評価

各項目の充足度・今後の方向性の得点の関係について、充足度・今後の方向性をそれぞれ縦軸と横軸にとり、得点の平均値を境界として、4つの領域に区分したプロット図を作成し、分析しました。



◆タイプA 不足しているが、拡充希望

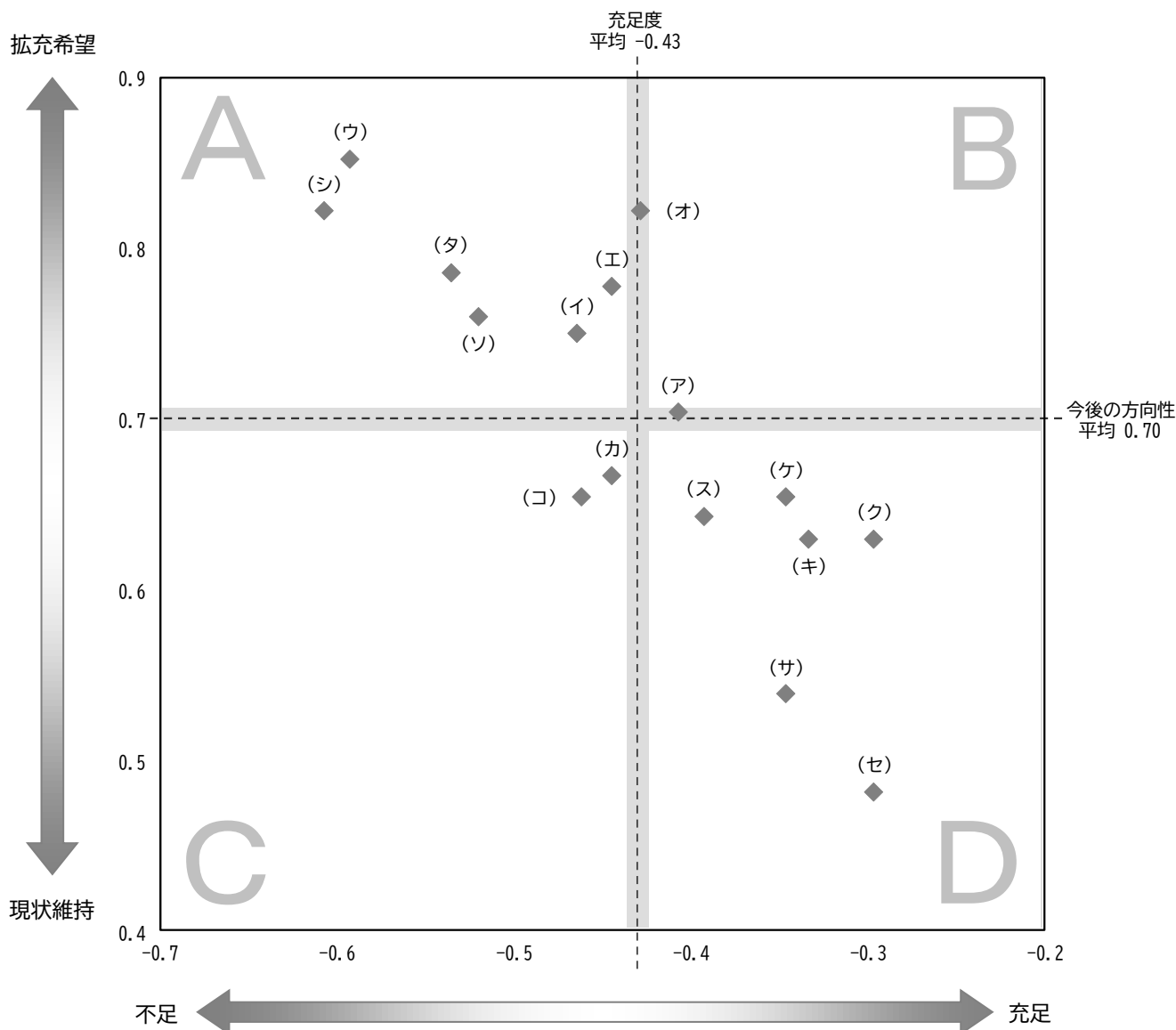
◆タイプB 充足しており、拡充希望

◆タイプC 不足しているが、現状維持

◆タイプD 充足しており、現状維持

●施策のポートフォリオ分析（回答者数 = 29）

不足しているが、拡充を希望する施策（タイプA）は、『(ウ)福祉制度の狭間で支援が届きにくい課題に対応する』『(シ)地域住民が集い、交流できる拠点を整備・活用する』などが挙げられています。



項目	
(ア)福祉以外の分野（まちづくり、商工業、農林水産業、土木、防災・防犯、社会教育、環境、交通、都市計画など）と連携し、様々な課題を抱える人々の就労や社会参加の機会を確保する	(ケ)市民後見人の育成や活動支援、判断能力に不安を抱える人々への金銭管理や身元保証など、権利擁護の仕組みを強化する
(イ)高齢者、障害者、子ども・子育て支援などの福祉分野の中で、特に重点的に取り組む分野を設定する	(コ)高齢者、障害者、児童への虐待防止策を統一的に整備し、虐待を行った養護者・保護者の課題にも対応する
(ウ)福祉制度の狭間で支援が届きにくい課題に対応する	(サ)保健医療や福祉サービスを必要とする犯罪歴のある人々の社会復帰を支援する
(エ)生活困窮者など、多様な福祉分野にまたがる支援を必要とする人々への対応できる体制を構築する	(シ)地域住民が集い、交流できる拠点を整備・活用する
(オ)共生型サービスなど、福祉の枠を超えた統合的な支援を展開する	(ス)地域住民が主体的に生活課題を把握し、解決に取り組める地域づくりを進めるために、福祉分野や行政区分との関係を整理する
(カ)住居に課題を抱える人々への包括的な支援を提供する	(セ)官民協働の促進や地域福祉への関心を高めるための寄付や募金活動を推進する
(キ)就労に困難を抱える人々に対し、福祉分野を超えた横断的な支援を実施する	(ソ)地域づくりに貢献する複数の事業を一体的に実施するために、補助事業などの資源を有効活用する
(ク)自殺予防の観点で踏まえた効果的な支援策を進める	(タ)地域福祉を推進するために、全庁的な体制を整備する

問4 鎌倉市が進める生活困窮者の自立支援の推進について、現状や課題をどう捉えているか
ご記入ください。

(主な意見)

公的支援について

- ・ フードバンクなどの支援を充実させる必要がある。
- ・ 公営住宅の不足や、生活保護要件を満たさないケースへの市独自の支援策が必要。
- ・ 境界層の方への支援を含む、多様な支援手段の導入が必要。金銭・家計管理についての支援も強化すべき。

各種関係機関との連携の必要性

- ・ 生活困窮者支援において関係機関との連携が重要。
- ・ インクル相談室鎌倉など相談窓口が連携して活動しているが、支援の運用には改善が必要。

就労支援と経済的課題

- ・ 障害や病気を抱えた方、高齢者の就労機会が少なく生活保護に依存する状況が課題。

行政の対応、支援体制について

- ・ 支援業務が民間委託されているが質や担い手が不足しているため、委託費用の見直しと職員負担軽減が必要。
- ・ 各相談窓口の方向性が統一されておらず、捉え方に違いが見られる。方向性や優先順位の明確化が必要。
- ・ 高齢者や精神障害者、虐待被害者など複雑な課題を抱える人々への対応が難しい。
- ・ 持ち家があるが無年金層や路地問題で物件売却ができない住民への支援が課題。

支援員の増員と柔軟性ある施策

- ・ 生活困窮者を支援するための支援員の増員が課題。

問5 鎌倉市が進める「障害者福祉」の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

(主な意見)

就労支援と社会参画の環境整備

- ・ 障害者が安心して働ける場を増やし、ジョブコーチの導入や就労支援の拡充が求められる。
- ・ 障害者福祉サービスを活用した就労支援が求められる一方、サービスに繋がらず支援が停滞するケースが課題。

サービス、人材の不足

- ・ 精神障害者への計画相談支援事業所やグループホームの不足が深刻。
- ・ 移動支援や家事援助サービスの供給が追いつかない状況がある。
- ・ ヘルパーや福祉事業所の人材不足が課題であり、報酬の向上や制度改革が必要。

重度障害者や複合課題への対応や、切れ目のない支援

- ・ 強度行動障害をもつ障害者の地域生活への対応、障害がある親の子育て支援、世帯支援が難しい。
- ・ 子育てや家庭内サポートを視野に入れた、地域全体での包括的支援が必要。
- ・ 障害を「自認していない」層や、支援の狭間に落ちる層への対応が不十分。
- ・ 社会全体で障害への理解を深めるため、子どもの頃からの福祉教育が必要。

サービスの地域格差

- ・ 市内で福祉資源の多い地域・少ない地域の偏りがあり、地域格差を解消する取り組みが必要。
- ・ 精神障害者へのショートステイや通所支援の不足。

制度支援の改善

- ・ 支援が途絶した障害者世帯が再接続できるよう、柔軟性をもった支援が必要。
- ・ 障害福祉制度やサービスの制約が多く、多様な課題に対応できない状況が目立つ。

行政の役割と課題

- ・ 障害福祉に関する窓口間の連携が不足しており、横断的な体制の整備が求められる。
- ・ 行政側の対応のスピードや柔軟性に乏しく、相談員の負担が増大している。

問6 鎌倉市が進める「高齢者福祉」の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

(主な意見)

施設の充実と整備

- ・ 高齢者施設の不足や老朽化が課題で、幼老複合施設や共有型施設の整備が求められる。
- ・ 老人福祉センターは利用者が減少傾向にあることから、見直しが必要。

地域ネットワークの構築

- ・ 地域で声かけや見守りを行う民生委員・主任児童委員・町内会との連携が重要。
- ・ 「みらいふる鎌倉」などの活動があるものの、担い手不足や参加率の低下が課題。

介護保険制度と福祉サービスについて

- ・ 介護保険以外の高齢福祉サービスの選択肢が少ない。
- ・ 見守りの負担軽減や安否確認が課題であり、独居高齢者に対する支援強化が必要。

多職種連携の強化

- ・ 医療や介護、地域包括支援センターを含む多職種による横断的な連携が必要。
- ・ 複合的な課題を抱えた世帯への支援は他分野とのつなぎ役が重要であり、支援の視点を統一する必要がある。

高齢者の閉じこもり防止と社会参加

- ・ 高齢者が外出しやすく通える場所やボランティア活動の参加を促進する環境整備が必要。
- ・ 地域の支援者として元気な高齢者を巻き込む仕掛けが不足している。

ケアラーへの支援

- ・ 在宅介護やケアラーへの支援が十分ではなく、制度設計の見直しが必要。
- ・ ケアラーが負担を抱え込みすぎず支援を受けやすい調整が必要。

問7 鎌倉市が進める「児童福祉」の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

(主な意見)

施設やサービスの不足

- ・ 保育所や児童館等の不足が原因で、他市に転居するケースがある。
- ・ 子どもの発達や発育、家庭での困りごと等に対する対応が十分でないという声を聞くが、人材や資金の不足で対応に限界がある。

地域連携について

- ・ 未就学児から小中学校を中心とした継続的な地域連携や見守り体制が不足しており、新たなネットワーク構築が必要。
- ・ 地域や学校、行政間での顔の見える関係の構築が求められている。

「こどもまんなか社会」の推進と課題

- ・ 「こどもまんなか社会」を目指す取り組みにおいて、保護者支援と子どものニーズが一致しない場合の対応が難しい。
- ・ 子ども一人ひとりの権利を保障し、家庭や地域、福祉などが連携する切れ目ない支援体制が必要。
- ・ 子育て世帯を対象にした予防的な支援や相談体制の充実が求められる。

教育機関と福祉機関の連携

- ・ 小中学校やS S Wとの個別の連携は進んでいるが、福祉施設との情報共有や協働の仕組みが不十分。
- ・ 障害児支援では、「障害」と「子育て」という異なる切り口の連携・調整が課題。

早期療育と障害理解の拡充

- ・ 障害の早期発見と療育の支援体制は進んでいるが、地域での障害理解や合理的配慮がまだ不足している。
- ・ 福祉教育の導入を通じて、障害を受け入れる環境づくりを進めるべき。

児童福祉サービスの拡充と分野横断的支援

- ・ 児童福祉サービスに恵まれているが、ショートステイや家事援助サービスは少ない。
- ・ 縦割りの制度では対応が不十分なため、重層的で分野横断的な支援が必要。
- ・ ヤングケアラーや半ばネグレクト状態の子どもに対する支援が不十分。

問8 鎌倉市が進める「包括的支援」の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

(主な意見)

包括的支援への肯定的な意見

- ・ 包括的支援が福祉という切り口で、横ぐしの支援をしているという点でありがたい。
- ・ 市に共生課の窓口ができたことは、包括的支援の大きな一歩となっている。
- ・ 重層的支援体制整備事業がスタートし、各機関間の連携が徐々に形になりつつある。

情報共有とネットワークの不足

- ・ 支援機関間の連携が十分でない箇所があり、特に行政内部の縦割り構造が連携の壁となっている。
- ・ 医療分野とのネットワークが不足しており、連携強化が必要。
- ・ 地域住民が包括的支援を具体的にイメージできるよう、ネットワークや支援の周知・交通整理が求められる。

人材の育成と課題解決の困難さ

- ・ 包括的支援を担う職員の負担が大きく、体制強化が必須。職員のスキル向上や研修体制が必要。
- ・ 各機関の職員の定着率が低く、引き継ぎ不十分から継続支援が滞るケースが課題。

地域生活支援と住民ネットワークの役割

- ・ 「見守り」や「いざという時の備え」も含めた地域生活支援の充実が重要。
- ・ ケース管理を明確化し、地域で顔の見えるネットワークを広げる支援を通じて、連携体制を整えることが大切。

包括的支援の明確化と周知

- ・ 現状では包括的支援の議論やシステム構築が課題だが、具体的な支援の形が分かりにくい。
- ・ 重層的支援体制が市民に十分周知されておらず、利用促進が課題。

問9 鎌倉市が進める「ケアラー支援」の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

(主な意見)

「ケアラー支援」の認知度と周知の不足

- ・ ケアラーやヤングケアラーの認知がまだ進んでいないため、相談窓口や支援内容を広く周知する必要がある。
- ・ ケアラー自身が自分の立場に気付いていないケースや、相談先を知らない状況が多い。

ヤングケアラーへの支援について

- ・ ケアする子どもの年齢が低年齢化しており、大きな負担を避けるための事前予防が重要。
- ・ 「ヤングケアラー」となり得る子どもがいる家庭には早期介入と伴走型支援が必要。
- ・ ケアラーが気軽に利用できる「敷居の低い居場所」が必要。ケアラー同士が体験を共有できる交流の場も有効。
- ・ ケアラーやヤングケアラーが一時的に避難できる場を設けるべき。
- ・ ケアラー支援は現場で対応できている部分もあるが、行政内部の連携が十分でないため、包括的な体制の強化が求められる。また、相談対応が中心で、具体的なサービスや資源が不足している現状にある。
- ・ 学校や地域、福祉機関がケアラーの支援体制を把握・共有し、横断的に取り組むことが重要。

ケアラーの孤立防止と多職種連携

- ・ ケアラーが孤立しないよう、家族や地域と繋がる環境の整備が重要。
- ・ 民生委員や町内会での見守りだけでは把握が難しい部分があり、福祉機関と地域住民の連携が必要。

ケア後のサポートについて

- ・ ケア役割から解放された後のケアラーが、これまでの生活からの急な変化に戸惑わないよう、意思形成支援が必要。
- ・ ケア中から継続的に関わってきた支援者が橋渡しを行うべき。

人材育成と支援体制の拡充

- ・ ケアラーの状態を適切に把握し、支援できる専門職を養成する必要がある。
- ・ 公的・民間両方の支援を充実させ、家族やケアラーへの負担を軽減する取り組みを強化すべき。

問 10 鎌倉市が進める（福祉の）地域づくりの取り組みについて、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

（主な意見）

多世代交流や幅広い居場所づくりが課題

- ・ 高齢者や子ども、障害者など対象の枠を超え、分野横断的で身近な複合型支援施設や居場所が必要。
- ・ 地域づくりへの入口を多くして、参加しやすい環境整備が大切。
- ・ 子育て支援センター等を活用し、多世代交流イベントなどの実施なども大切な試み。

住民主体の地域づくりと交流促進

- ・ 地域住民が主体となる地域福祉活動の支援が重要。
- ・ 世代を超えた交流による高齢者の生きがい支援が有効だが、高齢者間での課題解決には苦勞が多い。

地域福祉と行政の連携強化

- ・ 行政が福祉施設や市民に現状や方向性を明確に伝え、連携を強化する必要がある。
- ・ 地域包括支援センターや生活支援コーディネーターが地域課題に対応するものの、業務のすみわけや負担の多さが課題。

生活支援コーディネーターの役割と課題

- ・ 生活支援コーディネーター（ＳＣ）による「ささえあいの仕組みづくり」が進められているが、担当業務の範囲が広すぎる。

民生委員や住民組織の課題

- ・ 民生委員、地域代表者の高齢化や後任不足が進行し、活動の活性化や支援の新しい試みが難しい。
- ・ 地域住民が持続可能な活動をするための仕組みづくりが必要。

情報提供と地域資源の把握

- ・ フードバンクや地域の取り組みに対する情報が住民に十分届いていない。もっと分かりやすく簡単にアクセスできる体制が必要。
- ・ 地域資源や活動を把握し、横断的につなぐ取り組みが求められる。

予算や人材の確保

- ・ 地域づくりを支える専門職の拡充や、多職種連携の強化が必要。
- ・ 居場所運営や活動費用を確保するための持続的な支援体制の構築が必要。

問 11 鎌倉市が進める孤独・孤立対策の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

(主な意見)

地域のつながりと、居場所づくりの重要性

- ・ 希薄になっている近所付き合いや地域のつながりを復活させることが孤立・孤独対策にとって重要。
- ・ 子育て支援センターや老人福祉センターなどの施設を居場所として活用する取り組みが必要。
- ・ 世代や対象に関係なく誰もが集える共生型の居場所づくりを目指すべき。

子育て世帯への支援

- ・ 孤立しやすい子育て世帯（特に赤ちゃんのいる家庭）の支援として、妊娠中から利用できる子育て教室の開催を目指し、地域のつながりを促進すべき。
- ・ 子育て支援センターが親子の孤立を防ぐ重要な役割を果たしており、設備の改善やイベントの拡充が必要。

高齢者の孤独・孤立対策

- ・ 見守り活動が行われているものの、負担が重すぎるため、持続可能な支援体制が必要。
- ・ 高齢者に対する外出支援や、地域同士で繋がり活動を促進する取り組みが効果的。

地域福祉や民生委員の役割を強化

- ・ 民生委員や地域包括支援センターは孤独・孤立対策において重要な役割を担っているが、活動にばらつきがある。
- ・ 地域福祉や民生委員を中心とした取り組みを強化し、支援体制を充実させる必要がある。

重層的支援体制の強化

- ・ 鎌倉市の重層的支援体制整備事業は、包括的なアプローチが不可欠だが、地域づくりのプラットフォームがテーマ単位の集まりとなっており、地域に根ざしたつながりの構築が課題。
- ・ 地域に住む個々の特性に応じた支援体制や具体的な施策の創設が必要。

アウトリーチ支援と専門人材不足

- ・ 孤立・孤独状態にある人に対するアウトリーチ支援は重要だが、医療機関との連携や専門技術を持つ人材が不足している。
- ・ フットワークや対人援助技術を持つ専門機関や人材の確保が求められる。

孤独・孤立対策の周知・啓発について

- ・ 鎌倉市の孤独・孤立対策の取り組みが十分に周知されていない。
- ・ 市内の孤立・孤独の状態を収集し、本人や家族も含めた意見を踏まえた対策を検討すべき。

問 12 鎌倉市が進める災害時に避難が必要な人への支援対策の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

(主な意見)

要配慮者の把握と個別避難計画の作成について

- ・ 一人暮らしや障害者など避難が困難な方の名簿化や、個別避難計画の作成の遅れが課題。
- ・ 津波到達が予想される地区（材木座・由比ガ浜など）を優先的に、避難計画の策定を進める必要性がある。
- ・ 避難誘導者の記載が求められているが、住民の負担や精神的な負荷が懸念される。

福祉避難所の整備と官民協力

- ・ 福祉避難所の設置場所、設備、備蓄品、人員配置などが課題。
- ・ 老人福祉センターや介護施設などの福祉避難所拡充が必要。
- ・ 福祉避難所の運営について官民協力して対応を協議すべき。

災害時の地域連携強化

- ・ 総合防災課や健康福祉部との連携を強化し、地域防災組織、多職種団体とのネットワークを構築する必要性がある。
- ・ 地域住民の相互関係の希薄化が避難支援において障壁となるため、日頃の繋がりを促進すべき。
- ・ 地域の防災組織や住民だけでなく、観光客への対応策も考慮すべき。

支援体制の見直し・強化

- ・ 災害対策の窓口が縦割りで相談しにくい。総合的な備えを助言できる窓口の設置が必要。
- ・ 火災、津波、地震などに紐づく具体的避難方法の指南や情報提供の充実が求められる。
- ・ 災害時に小規模事業所から市への連絡がスムーズにいく仕組みが不明確。

防災教育と啓発活動

- ・ 地域住民への防災教育を広め、津波到達のリスクが高い地域では率先した避難を推進すべき。
- ・ 防災活動について、小学校や地域の組織を活用した取り組みを進めるべき。

問 13 鎌倉市が進める住宅確保要配慮者に対する居住支援対策の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

(主な意見)

居住支援対策の取り組み内容や情報の不足、相談体制について

- ・ 居住支援対策の具体的な取り組みを把握していない、理解が進んでいない。
- ・ 居住支援協議会について、研修やネットワークの成果をもっと発信し、明確にアピールすべき。
- ・ インクル相談室やガイドブックを通じた情報提供を行っているが、それだけでは十分ではない。
- ・ 子育て支援センターなどで相談があった場合、関係機関との連携を図り対応しているが、さらに対応力を強化すべき。

住宅確保が困難になっている背景

- ・ 鎌倉市内の賃貸住宅は他地域に比べて家賃が高い状況があり、低所得者や障害者などが住まいを確保するのが困難。
- ・ 公営住宅やセーフティネット住宅が少なく、供給が追いついていない。
- ・ 空き家が増えているが、それを有効活用する取り組みが進んでいない。

貸主や不動産業者との連携について

- ・ 障害者や住宅確保要配慮者を受け入れてくれる大家や不動産業者が少なく、入居審査に通らないケースが多い。
- ・ 貸主や仲介業者の理解を得るために、研修や啓発活動を強化し、保証システムをサポートする仕組みが必要。
- ・ 大家が要配慮者に安心して住宅を提供できるようなインセンティブや施策が求められる。

支援体制の強化

- ・ 居住支援協議会や地域ケア会議を活用して、多職種連携による対応が行われているがさらなる強化が必要。
- ・ 複合的な課題を抱える層に対しても、迅速かつ柔軟に対応できる体制づくりが求められる。
- ・ 引っ越しが必要なケースでは、利用者自身が財産で工面しているため、何らかの支援があればよい。
- ・ 虐待案件や精神疾患、高齢者世帯などの、新たな住宅確保に向けた対応が必要。
- ・ 障害者などひとり暮らしを希望する人に対して、グループホームの誘致が求められる。

問 14 鎌倉市が進める「成年後見制度」の利用促進や意思決定支援の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

(主な意見)

制度の認知度向上と利用促進について

- ・ 成年後見制度はまだ市民への浸透が進んでおらず、安心して早期利用できるよう周知が課題。
- ・ パンフレットや広報活動は充実しているが、住民につながるまでの流通が課題。
- ・ 市民への情報提供や勉強会の開催による理解促進が必要。

後見人の育成と担い手不足

- ・ 後見人のなり手が不足している状況で、市民後見を進める必要がある。
- ・ 担い手確保を目的に、横須賀市のような後見法人設立への資金支援制度の導入が有効。
- ・ 後見人の役割が団体や個人によって曖昧であり、報酬の透明性を高める必要がある。

制度の使いやすさと手続き簡略化

- ・ 障害者の親や家族が高齢となり、大量の書類や煩雑な手続きに二の足を踏むケースが多い。
- ・ 制度の仕組みや手続きを簡略化し、利用しやすい仕組みを検討すべき。
- ・ 一度後見制度を利用すると取り消しや後見人変更が難しい点が課題。

費用負担と困窮者への対応

- ・ 成年後見制度の費用負担が高く、困窮者（生活保護受給者以外）は利用が難しい状況がある。
- ・ 費用の軽減や補助策の導入が必要。

後見制度外の支援が求められるケースへの課題

- ・ 後見制度に該当しない状態の者には日常的な金銭管理の支援が難しい状況がある。
- ・ 補佐や補助機能の対象者への対応強化が求められる。

包括支援センターと議論の場の活用

- ・ 地域包括支援センターが権利擁護の主体的な協議の場を設けることが必要。
- ・ 成年後見連絡会や利用促進協議会において、事例検討や情報交換が行われているが、現場での応用が課題。
- ・ 包括支援の社会福祉士が対応に苦手意識を持つケースもあるため、市の支援が必要。

成年後見センターの役割強化

- ・ 成年後見センターの位置づけや機能整備（司令塔機能、事務局機能、進行管理機能）の状況を確認し、役割強化を図るべき。
- ・ 個別支援も担える体制を整えることで、相談対応や啓発活動の充実が期待される。

問 15 鎌倉市が進める地域で福祉活動を担う人材（ボランティア・住民主体の担い手など）の人材育成・確保対策の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

（主な意見）

人材不足、高齢化について

- ・ ボランティアや住民主体の担い手は高齢化しており、平均年齢が高い現状が危機的状況にある。
- ・ 定年延長や年金制度の影響で新しい担い手が減少している。
- ・ 民生委員をはじめとする地域の担い手不足が顕在化している。

新たな福祉人材の確保

- ・ 社会福祉協議会の機能を活用し、ボランティア養成やサポート体制を強化すべき。
- ・ 福祉活動の需要とのマッチングが不十分であり、マッチングアプリなどの活用が求められる。

地域住民、とくに若年層の関与促進

- ・ 福祉活動に興味を持つ市民は多いが、実際に活動する人は減少傾向にあるため、行政や福祉団体の市民へのアピールが必要。
- ・ 「福祉」という言葉や枠組みがハードルを上げてしまっているため、老若男女が気軽に関われる仕組みづくりが必要。
- ・ 学生や若者と障害当事者が繋がる仕組みや福祉体験授業の拡充、若い世代への職場体験機会の提供が求められる。

担い手の魅力向上と支援の強化

- ・ ボランティアにやりがいやメリットを感じてもらうため、「ボランティア休暇の法制化」や「ボランティア貯蓄による減税策」などの施策が求められる。
- ・ 活動のハードルを下げる仕掛けや、続けやすい仕組みが必要。
- ・ 専門職を補完する役割としてのボランティアの価値を高める構造を作るべき。

問 16 鎌倉市が進める福祉専門職（相談員、ヘルパー、支援員、保育者など）の人材育成・確保対策の推進について、現状や課題をどう捉えているかご記入ください。

（主な意見）

人材確保と育成、人材定着の仕組みづくり

- ・ 福祉専門職の不足が深刻であり、人材育成や確保対策が現状ほとんどないことが課題。
- ・ 障害ヘルパーやガイドヘルパーに関する助成や養成研修会の開催は一定の成果を上げているが、さらなる取り組みが必要。
- ・ 資格取得や研修機会の拡充、キャリア支援（資格取得のための経費負担）によるスキルアップを促進すべき。
- ・ 離職者を減らす工夫を市内で分野横断的に進めるべき。
- ・ 支援者の疲弊を防ぎ、広域的に支援者を支援する仕組みの構築が必要。
- ・ 働きやすい福祉の現場を目指し、鎌倉市ならではの魅力をアピールすべき。

雇用の安定化と処遇改善

- ・ 多くの福祉専門職が会計年度職員や非常勤職員であり、雇用が不安定な状況が課題。
- ・ 安定した継続的な雇用体制を確立し、十分な予算を確保する必要がある。
- ・ 賃金や処遇改善費を非正規職員にも適用することが有効。専門職としての賃金保障が不可欠。
- ・ 福祉現場で働く環境を改善し、就業者に社会的評価や満足感を提供する仕組みが必要。
- ・ 高齢者支援サポートセンターやシルバー人材センターの活用を進めるべき。

多様な主体による支援と連携

- ・ 企業・事業所が主体であるなら、CSRの取り組みとして活動・継続が可能となるため、企業への働きかけが必要。
- ・ 地域通貨「クルッポ」などを活用し、地域住民やボランティア活動者を支援する仕組みづくりを進めるべき。
- ・ 大学や専門学校など育成教育機関とのパイプ作りを進めることで、実習や就職の連携を図るべき。
- ・ 訪問介護事業所数が減り、高齢者支援に影響が出ている。これ以上事業所数が減らないように、他の職能団体との連携や市の介入が必要。

鎌倉市の地域福祉に関するアンケート
調査結果報告書

発行年月：令和7年8月

発 行：鎌倉市 健康福祉部 福祉総務課 福祉政策担当

電 話：0467-61-3436（直通）